

特定非営利活動法人

VOL.22

南国暮らしの会

2003 年 秋 季 号



平成 15 年 10 月 25 日



NPO 法人 南国暮らしの会

目 次

会員敬称略

| 表 紙 | | 頁 |
|-----|--|---|
| 目 次 | | 1 |

◆バリ特集

| | | |
|------------------------|---------------|-------|
| バリ島からの小旅行 | No. 245 佐藤真理子 | 2~5 |
| お気に入りのレストランとメニュー (バリ編) | 会 友 長岡美和子 | 6~8 |
| のんびりバリ島 | No. 239 伊藤 寛 | 9 |
| バリ島ロングステイ | No. 6 石川 綏夫 | 10~11 |
| 主観的バリ島情報モドキ | No. 593 小林 繁之 | 12~17 |
| バリ島滞在基本情報 | 会 友 長岡美和子 | 18~23 |

◆その他の地区

| | | |
|------------------------|---------------|-------|
| 太平洋・サモアの滞在事情 | No. 643 鈴木 憲介 | 24~29 |
| ゴールドコースと日本語教師とL. S. 体験 | No. 433 乾谷 晴美 | 30~35 |
| レイテ交友記 | No. 241 下元 彬人 | 36~39 |
| 見聞録 | No. 40 平澤 信 | 40~43 |
| 南国暮しの記 | No. 227 斉木 一 | 44~47 |
| 四国ほたる遍路の旅 | No. 442 平尾 守満 | 48 |

| | | |
|------------|----------------|-------|
| 南の空から情報宅急便 | —南国メーリングリストより— | 49~50 |
| 情報交換会のお知らせ | | 51~52 |
| 南の会・伝言・掲示板 | | 53~54 |
| 支部・部会伝言板 | | 55~59 |



バリ島からの小旅行

札幌市在住 会員No.245 佐藤真理子

2003年7月3日から8月4日まで私の4回目のバリ島の旅です。

2年前に始めて一人旅を経験して、バリ島でお世話になった方達との再会を楽しみに旅立ちました。それと日本ではお会いした事の無い「南の会」の橋本さんご夫婦と石川さんご夫婦にもお会いすることが出来ました。

飛行機は千歳発のJALです。

宿泊は最初の5日間だけ日本で決めて後は向こうに行ってからスケジュールを決めましよう、ほとんど白紙状態の私の予定表でした。その最初の宿も前回とてもお世話になった、サヌールのYASUOさんに手配していただきました。1泊25ドル(一部屋)でとても便利で居心地が良かったので結局、その宿に16泊する事になりバリ島から『ジョグジャカルタ2泊3日』・『ロンボク島2泊3日』の旅の手配も全部していただきました。その他携帯電話の手続き、「バティック教室の手配」・・・など。女一人でも安心して旅をすることが出来たのは現地の信頼の出来る方のサポートがあつてこそと、とても感謝しています。



サヌールのPURI・SADINGホテル

それでは私のバリ島からの小旅行のお話を。その前に、私は3日間トパティと言う町でバティックの染物を習いました。

お店は「POPILER II」と言う大きなところ。ここは札幌のバティックの先生に教えていただきました。朝の9時から夕方4時まで

お店のスタッフに混じって片言のインドネシア語で楽しく過ごす事が出来ました。

そんな事をしていて、バティックはジャワ島が本場だよと言うお話を聞いて行ってみたいくなり、又世界遺産の「ポロブドール寺院」も見て来たいと言う思いでジョグジャ行きを考えました。

『ジョグジャカルタ編』

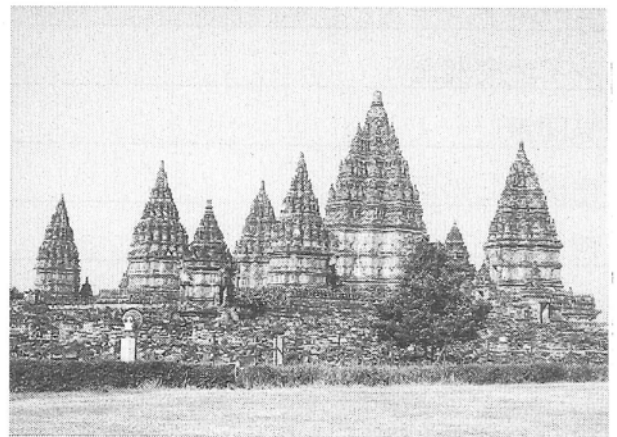
〈7月16日から18日〉

まだ真っ暗な朝5時に迎えの車が来て、6時発のガルダでジョグジャカルタへ。

時差が1時間のジョグジャカルタには6時に到着。お迎えのガイドさんはプジさんと言う30代の女性。日本語が堪能で日本の事も良く知っていました、3日間私はプジさんとドライバーにお世話になりました。

こんな早い時間から観光なんてした事が無い!!なんとなく頭の中はすっきりしないけど、とりあえず「プランパナン寺院」を見学。

想像以上に良かったです。



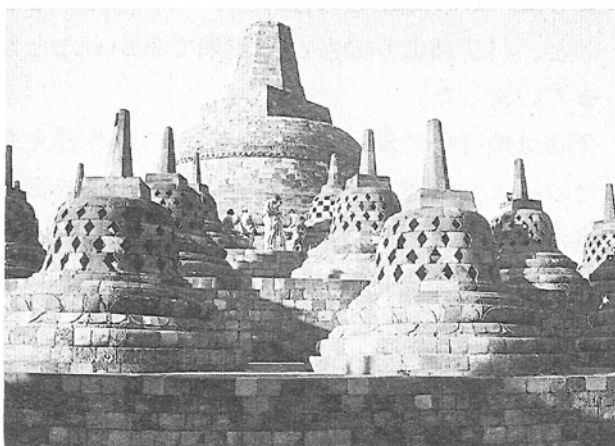
プランパナン寺院

丁度インドネシアの国の夏休みと言う事で、高校生が大勢キャンプをしていて、東ティモールから来ているという女子高校生とお話することが出来ました。村に伝わると言う太鼓の演奏をしてくれました。丁度インドネシアの国の夏休みと言う事で、高校生が大勢キャンプをしていて、東ティモールから来ているという女子高校生とお話することが出来ました。村に伝わると言う太鼓の演奏をしてくれました。

ホテルで一休みをして、午後3時頃からいよいよ世界遺産のポロブドール寺院に行きました。ポロブドール寺院は824年に建造されたものと言われていました。

建造後1000年以上も密林の中で火山灰に隠れ眠り、歴史的価値は明らかでもいまだに神秘のベールに包まれ、多くの謎が残るミステリアスな遺跡だそうです。ムラピ山の噴火で埋もれていたと言う説と完成と同時に埋められたと言う説が有ると言う。1814年に土中より掘り起こされ、修復作業が行われた。

夕日が沈む頃が美しいと聞いていたので閉館の5時半まで上で待っていました。本当に綺麗でした。180段近くある階段を頑張って登ってきただけのことはありました。お時間がある方は、朝日が昇る頃も美しいと聞いています、是非体験してみてください。



ポロブドール寺院

帰りに日本人の方のお店によってホテルに着いたのは9時頃でした。

次の日もその方の家に行って長々とおしゃべりしていました。16年前にジャワ人と結婚して、最初は何にもお金が無くて苦勞しながら子育てをしながら、自分の好きな絵を描いていたそうです。それから少しずつ事業を大きくして行って、今では日本のお店屋さん、コンテナで商品を送るまでになったと言う方でした。

ジャワ島の色々なお話を聞いていたら、何だか観光するより楽しいひと時でした。

その他にソロと言う町も見てきました、最終日

に行ったので時間があまり無くゆっくりと見ることは出来ませんでした。泊まったホテルは『サントィカホテル』お部屋も広々としていて清潔でセキュリティもしっかりしていました。

『ロンボク島編』

ギリ島でシュノーケル

〈7月23日から25日〉

朝7時半、一寸寝坊して飛行場までタクシー9時発のメルパチと言う会社の52人乗りの小さなプロペラ機です。30分のフライトでバリ島の隣の小さな島のロンボク島に着きましたが、やっぱり小さなプロペラ機は一寸怖いですが、ロンボク島には高速船や、フェリーでも行く事が出来ます。お時間のある方はこちらで、10時にはスングギの町の中の「PURI SARON」ホテルに到着。朝早い到着ですがチェックインは出来ました。ご紹介してくれたYさんも日本のガイドブックにも載っていないし、自分もまだ行った事が無いからとホテルの事をご心配していましたが、私が創造していたより、広々として綺麗で、シャワーのお湯もたっぷり、ゆったりとバスタブにつかる事も出来ました。勿論プールもあって、裏の方はすぐ海です。セキュリティボックスも心配なく使えました。



この2階のお部屋です

ホテルからスングギの町までは車で5分くらい。シャトルバスで送ってくれます。帰りは自分でタクシーか、チドモと言う馬車のような乗り物に乗って帰ってきます。

私は、帰りは必ずチドモに乗りました。シャンシャンと言う鈴の音と、パッカパッカと言うひずめの音、それに涼しい風……。本当にのんびりと時間が過ぎていくのを感じました。



スンギギの町の中の「チドモ」

スンギギにもネットカフェがありました。バリ島より金額も安いですし近代的でした。

2日目はロンボク島での目的の『ギリ3島でのシュノーケル』を体験しました。この3つの島はとっても小さくて、珊瑚礁と白砂の海岸、いっぱいのお魚、車も走っていないのんびりとした島です。

前日に地球の歩き方に載っていた、旅行代理店の「NOMINASI」と言う所で申し込んでおきましたが、ギリ・トゥワラガンに直接渡ってから申し込みしても大丈夫です。

私はスンギギの海岸から小さな船で1時間で『ギリ・トゥワラガン』に渡ってまずは町の中を散策してそれからシュノーケル！！

ガイドブックに、ギリでは車が走っていないくて乗り物はチドモだけとありましたが、町の中を歩いて納得！！道幅がとっても狭くて馬車しか通れませんでした。何でも実際に見てみないと解らない物だなと思いました。

でもそれが又のどかで、のんびり出来て良いのだな、と思いました。シュノーケルはとっても美しかったです！！その次は『ギリ・メノ』に渡ってランチを食べて、又シュノーケル！！ここも綺麗でした。ギリ・アイルは行きませんでした。すぐ目の前に見て、帰ってきました。ロ

ンボク島に来て感じたのは、バリ島よりのんびり出来る場所だと思いました。



トゥワラガンの町の中

今回は短い滞在でしたので、観光は一切出来ませんでした。次回ゆっくりと観光もしてみたいと思いました。

帰りの飛行機で始めて日本人のカップルに会いました。その方たちも始めてロンボク島に来たけど、バリ島よりのんびり出来て良かったと言っていました。

今回は飛行場に到着してホテルからの送り迎えのみでしたが、次回は自分でホテルまで行けると思いました。私を感じた範囲では治安が悪いという印象はありませんでした、(危ないところにも行かなかったから)

2日目は夜スンギギの街の中で食事をして帰りはチドモに乗ってホテルまで帰りましたが怖い事はありませんでした。(本当はドキドキして乗りました)

バリ島に戻って次の日から6泊ウブドで過ごしました。宿泊は「スアラ・アラム」と言う日本人の女性がやっている2部屋のゲストハウスです。ここのオーナーには前回とてもお世話になりました。今回も安心して過ごすことが出来ました。ウブドでは、3年後には早期リタイアしてバリにゲストハウスを建てて住んでしまうと言う夢を着々と進めている若い女性とお部屋をシェアして泊まりました。この方とはメールで知り合いました。ウブドでは彼女の土地探しにお付き合いしたり、南国の会の石川さ

んから教えていただいた洋服の仕立て屋さんで洋服を仕立てたり、ジョクジャカルタで買って来たバティックの布で、テーブルセンターやランチョンマットを作ってもらったり、レゴンドンスを見たりのんびりと過ごしていました。又色々な日本人の方のお話を聞く事が出来て、現地に住み着いてしまった方から良い話だけではなく、色々苦勞話を聞くことで海外に住むと言う事が簡単ではないとつくづく思いました。でもお会いしておしゃべりしていても、皆さんとても明るく前向きなんです。大変だけど、日本には無い何か魅力が有るのでしょね。



ゲストハウスからの夕日

最後の 2 泊はサヌールに戻って「パリガタ」と言う中級のホテルに泊まりました、ここは 2 年前にも泊まったことがあります。今回は目の前がプールサイドのデラックスのお部屋で 42 ドルでした。日本で予約してきたと言う一人旅の若い女の子は 75 ドルだったそうです。金額の違いにビックリしていました。

一人で旅をしても、南国の会の人にお会いしたり、現地の日本人の方といっしょに食事をしたり、寂しく感じる事も無くあつと言う間の一月でした。お世話になったバリの皆さん、バリでお会いした「南国の会」の皆さん本当に有難うございました。

☆YASUO さんの HP (PT.Sanur Indah)

<http://www.jalanbali.com>

バリ島のサヌールに 3 年半前からご夫婦で住んで、今は会社を立ち上げていらっしゃる。私達と同じ年代です。色々な手配はほとんどお願いしました。

☆AYUN さんの HP (スアラ・アラム)

<http://tidak-apaapa.com/index.html>

バリ島に 2 年前から住んで 1 年前からゲストハウスを開いている若い女性の方。

☆私の HP (APA-KABAR?)

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/ibu-mari>

今回の旅行記を詳しく書いています。

ある一日の生活費 (サヌールで)

| | |
|-----------|----------|
| ネットカフェ | 80000ルピア |
| ビーチでランチ | 11000ルピア |
| 屋台でディナー | 16000ルピア |
| 水(500m) | 1500ルピア |
| ベモ(乗り物)2回 | 2000ルピア |

100円で7000ルピア

ランチもディナーもとても美味しかった!!

ギリ島でのシュノーケル

朝 9 時から夕方 5 時くらいまで、ホテルまで 送り迎えつきで 30 ドル自分で現地で手配しました。)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

今年の 10 月にバリではテロ事件がありました。

でも本当のバリ島は平和で安全な国です。『癒しのバリ島』に一度行ってみてください。

お気に入りのメニューとレストラン (バリ編)

バリ島在住 会友 長岡美和子



雰囲気の良いホテル内レストラン

ここ3～4年の間にバリ島で急激に増えた物。車と店、オフィス用ビル、そしてなんととっても多国籍レストランでしょう。有名な観光地で世界中から人の集まってくる島ですから、腕自慢のシェフも次々と参入し、味のレベルが高くなっているのは嬉しい限りですね。

日本食をはじめ、知っているだけでも韓国・中華・台湾・イタリアン・フレンチ・ドイツ・ギリシャ・地中海・メキシコ・インド・タイ・果てはモロッコ料理までごく最近ですがオープンし、トレンドな店として賑わっています。更にはインドネシアの他島の料理屋も数多く、多様な味を楽しむ国内最高の環境です。

私はバリ島に住んでいながらインドネシア料理が苦手で、クリームまったり系に目がありません。そしてなんととっても和食が一番！！という和風魂の人間ですので(笑)偏りがある内容となりますが、そこはご容赦下さいませ。

それでは、美味しいと思うお気に入りのレストランを地域別にご紹介いたします。

ちなみに¥1,000=Rp70,000のレートで計算しています。

クタ・レギャン地域

○ ル・ベイクショップ

在住白人ご用達のカフェテリアです。明るい店内にエアコンが効いてとても居心地良く、ハイソな欧米人客を眺めているのも一興。ここは

パンとケーキが美味しくていつもテイクアウト。特にティラミス(Rp11,500)はバリ一番だと思います。パンはRp3,000(¥45)程度から。

意外とイケるのがミゴレン(インドネシア風や焼きそば)で、珍しく娘も食べれます。メニュー値段は平均Rp25,000～(¥300～)

○ 天海—てんかい (バリパドマホテル内)

高級ホテル内に日本食レストランは数あれど、ダントツで美味しいのがここ！インドネシアの素材を知り尽くした日本人シェフ・ハタノさんが早朝の仕入れから味付けまで全てチェックして出される料理には、ここがインドネシアだという事を忘れてしまいそうになります。

特定のお気に入りというより、その日一番の素材を生かした特別料理をいつも頼むのですが、思い出だけで涎が！サーロインステーキだったり、新鮮な牡蠣、お寿司、天ぷら他、日本で食べたら高値の料理もここならここそこリーズナブル。スタッフの教育も行き届いており安心できます。本格派の日本食が恋しくなったら是非行って見て欲しい店ですね。

予算は飲食 Rp30 万/人～(¥4,500～)程度からみて頂ければ大丈夫でしょう。



レストラン天海のお座敷

○ フラマ

空港傍にある中華系インドネシア料理の店です。とにかく旨い。ここのナシゴレン(インドネシア風チャーハン、Rp13,000)とウダンゴレン・

テガ(海老のバター焼き・時価)は特に推薦ものですが、1皿の量が多いので気をつけてくださいね。チャプチャイ(野菜煮込み)やコドック(蛙料理)なども人気です。各種フルーツジュースは何故か Rp10,000~とちょっと高め。

セミニヤック・クロボカン地域

○カフェワリサン

クロボカンのレストランプームの先鞭をつけた、お洒落なフレンチ中心のレストランです。元仏大使館お抱えシェフがマネジメントをしているだけあって美味しさとボリュームは満点。なんでもイケますが、特にお勧めは生卵を乗せたまったりカルボナーラ(Rp25,000)をはじめとするパスタ系と、チキンを使った肉料理ですね。カルボナーラはあまりの美味しさに、注文時に予め1.5倍の量でお願いしていました(笑)。セレクトワインやビンタンビールを友にして、オープンエアにキャンドルライトが灯るムーディなひと時を過ごすのも乙なものですよ。

○楽ーらく

とつても家庭的な日本食屋さんで、在住者もよく通っています。コロッケや肉じゃがなど普通のメニューがとても美味しく、しかも店内が和やかな雰囲気なので居心地がいいんですね。日本の落ち着いた和風居酒屋?にいる気分させてくれる、稀有な店と言えるでしょう。

○トラットリア

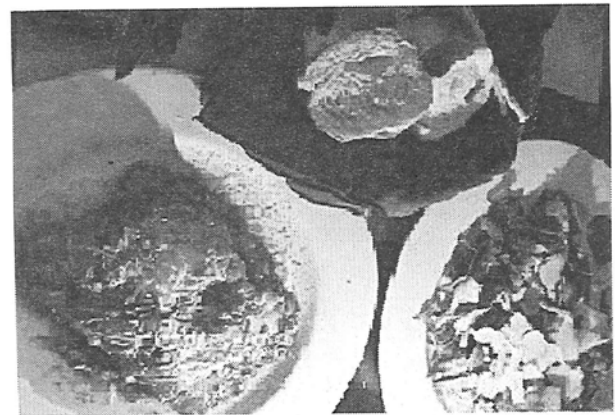
昨年頃から新興レストランが続々オープンし、今や一大スポットと化した通称「オベロイ通り」。

その中で超イチオシなのが、このイタリアンレストランです。狭い店内はいつも混雑してて、特に夕方のご飯時は予約必須。難点はとにかくメニューが読み難いことで、日本人だから読めないのか?と思ったら、隣の席の白人達も結構困っていました(笑)。ホッ。

値段はかなりリーズナブルで、例えば2人でグラスワインと前菜、メイン、パスタにデザート

トと欲張ったとしても Rp20万(約¥3,000)でまかなえます。それで味は激賞!!ものですからイタリアン好きな方はとにかく行くべし!

お勧めはゴルゴンゾーラのパスタと特製サラダ。チキンや牛肉を使った料理も美味しいです。



パスタや付け合せブレッド

ジンバラン地域

○お茶の間カフェ

クーラーの効いた、きれいな洋風日本食カフェといった感じの店です。各種弁当からランチセット、単品とメニューも充実。焼酎や日本酒もボトルキープ可能で、夜は在住日本人男性の溜まり場らしい(私は怖くて行けません・笑)。家が近いせいもあり、よく夕飯のおかずにとテイクアウトするのがカニクリームコロッケ(Rp30,000)や野菜の煮物で、きちんと食べる際はカレーオムライス(Rp27,000)が多いですね。疲れた体には「卵雑炊」が好評。他にはアイスカフェラッテ(Rp12,000)が評判です。

ジンバラン地域は日本食屋が少ないので、貴重な店ですよ。当然日本語も通じます^^

○海老壺レストラン

複数の在住日本人がジョイントしてオープンさせた、注目のイカンバカール(シーフードバーベキュー)店です。ジンバランの海辺に並ぶこういった店は知る人ぞ知る超人気ゾーンですが、ガイドブックで詳しく紹介されませんが、その点でもここが安心してお勧めできま

ぐ傍の魚市場で仕入れたプリプリのシーフードがたっぷり楽しめます。私のお気に入りにはシーフードリゾット (Rp45,000) と海老壺カレー (Rp40,000)。超高級ホテルのシェフ指導だから味も抜群ですよ。

眼前に広がる雄大なサンセットと続く夜景も必見で、良い思い出になる事間違いなし。



抜群のロケーション

ヌサドゥア地域

○和の家-かずのや



定食の一例

ヌサドゥアの端っこという不便な場所にあるにも拘らず在住者や観光客に人気なのは、個人経営の店だけど味のクオリティが高いからでしょう。オーナーの坂入氏が開店から閉店まで必ず店にいてチェックをしていることが、味が安定している秘訣だと思います。

妊婦時代からお世話になっていますが、変わらず食べているのが定食(各 Rp45,000~)。その時々オーナーが考案する定食は特に狙い目で、この前までは「豚しゃぶ定食」、今は「す

きやき定食」のはず。

お寿司も鉄板焼きも何でもアリでメニューも豊富。リーズナブルで美味しい日本食をと思ったなら、迷わず行ってみてください。

ウブド地域

○カフェアンカサ

ウブドを愛する日本人男性経営のカフェで、水にこだわった焙煎コーヒーが特に人気です。お勧めはバリで希少価値の厚切りトースト(各 Rp7000~)や自家製ケーキ(各 Rp10,000~)、そしてなんといってもカルボナーラ (Rp27,000)。どれも本当に美味しいので、ウブドに来たら一度ぜひ味わってみてください。

また、この店では時々アーティストのセッションなど芸術系の催しがあるので、足を運んでみるのも楽しいかと思います。



ケーキコンビ

○イブオカ

バリ料理といえばバビグリン(豚の丸焼き)とラワール(豚の血と内臓を混ぜたもの)がポピュラーですが、この店のバビグリンは地元バリ人も絶賛の美味しさで、少し高めにも拘らずいつも観光客やバリニーズで混雑しています。

ナシ(白ご飯)や野菜と一緒に豚肉が入った皿を手でつまんで食べるというのも、アジア的な気分を味わえて良いと思いますよ。

以上、普段のテリトリーそのままをご紹介します(笑い)。好みは人それぞれだと思いますが、皆様がバリを訪れる際の目安の1つになれば幸いです

のんびりバリ島

東京都在住 会員No.239 伊藤 寛

2003年6月12日(木)成田発 11:00バリ着、17:10のガルーダ航空(チケット代 57,500円 21日間)で行ってきました。機内で入国審査(ノービザで2ヶ月滞在できる)を済ませているので空港では荷物を受け取るだけで楽でした。石川夫妻の歓迎を受けウブドのコテージに1時間20分で到着。17日間滞在しました。

観光客も昨年の爆破事件、今年のイラク戦争、サーズでかなり落ち込み、ホテル料金もかなりダウンしてました。1泊70ドルが1週間以上なら12ドルのところもありました。私の部屋は2ベッドでエアコン故障(扇風機付きこれで充分)TV、冷蔵庫なし、朝食付きで1日Rp120,000(1,680円/Rp10,000=140円)朝食はテラスまで運んでくれて鳥のさえずりを聞きながらの毎日でした。町の建物は2階建てまでしかなく、レストランも大半が東屋風の吹き抜けのオープンカフェ形式で日本料理店も3軒あり、少し歩けば田園風景が広がってます。気候は爽やかで最高28℃最低22℃で日中歩いても少し汗ばむ程度です。

朝は町のメインストリートのモンキー・フォレスト通り、ウブド通り、ハヌマン通りを1周する散歩約1時間。市場は2箇所ありまたスーパーは3箇所あり警察署前のデルタ・デワタが品揃えが豊富でした。

日本と同じ仲介不動産屋がありました。ハヌマン通りをぬけアルマ美術館に行く途中の日本料理店影武者の近くに日本語でチャリバリ・アパート情報の看板が有り、窓ガラスに多数の賃貸物件が間取り図と正面の写真と内容が書いてありました。Rp 60,000/月とう物件も有り、日本円で1ヶ月840円本当かスタッフに聞いたら間違いないと。Rp150万/月位の物件がお勧めかなと感じた。ホームページもあり、www.balidicaricaridibali.com。

ウブドにはホームステイの看板が個人宅に多数見られました。神々の島と言われ毎朝お供

えと祈りが見られ、夜には定期公演のガムランの音楽が聞こえてきます。オダランという祭礼の中の、たまたまこの時期にガムランという日本のお盆のような祭礼があり、現地の礼装でお寺に参拝。



礼 装

都会のデンパサールに出かけるためベモ(ワンボックスカー改造した乗合バス)にも挑戦しました。宿のスタッフに乗車料金を確認。行き方はウブド市場前でこげ茶のベモを止め、バトゥブラン(ベモステーション)と言うところまで乗車して約45分終点で降り、助手席の窓から運転手にRp5,000を渡す。次に構内整理している人にクレネンと言うと黄色のベモ(軽自動車)を指すので乗り込む。暫くすると若い女性がどんどん乗り込みすし詰状態でも出発しない。結局助手席に2人、荷台席に12人乗せて出発。20分で終点だけ恐かった。Rp4,000渡す。やっとデンパサールに着きました。午後は冷房の効い映画館にシネコン形式で4本上映中。一回の入れ替え制で切符売り場で座席を指定してRp11,000支払う。座席は日本の1.5倍位の広さで快適でした。夕方にはクレネンに戻りベモに乗るが私だけ、いつまで経っても出発しない。諦めて近くのバイクタクシーに交渉しRp5,000で決着。バトゥブランのウブド行きも私だけでした。長時間待たされて出発した時はホッとしました。いろいろありましたがまた訪れたい島です。

バリ島ロングステイ

神奈川県在住 会員No.6 石川 綏夫

はじめに

よく会員の方や知人から、バリでよく 2 ヶ月も何をしているのかと聞かれる。答えに困る。目的も無くただバリで生活しているだけで日本と違うのは炊事、選択、掃除など日常の細かな事をしない事と、新聞、テレビ、メールなどメディアの情報が、ほとんど無い環境に居られる事。そして田園ののんびりした風景…。しかし、これらの事柄はバリでなくても日本、あるいは他の国でも可能であろうし、敢えてバリである必要は無い。それでもバリ（ウブド）が好きで、気候の良い 6 月頃に毎年来ようと夫婦で決めている。今回のロングステイで、どのような事があったのか、何をしていたのかを書く事でバリ好きが理解できれば幸いです。

1…テガラランのパロン

最初に見たのは、テガララン村からウブドのプリサレン王宮まで、何百人の村人が徒歩で 2 時間程かけて、村のパロンの引き取りに来て、また徒歩で村に帰る。翌日ギャニャールの海で清める儀式。村全体が参加するのが壮観であった。

2… ガベン(葬式)

数日後、王宮の近くでガベンが行われると聞き、昼頃出かける。黒い大きな牛の張子が道の真中に、竹で作った神輿の上に載せられている。その他にメルを型取った物（棺を安置する）も載せてある。今回は王族またはそれに準ずる人のガベンなので、盛大である。屋敷内で儀式を済ませた人々が数百人ほど列を組み、ウブドの中心から死の寺まで練り歩く。死の寺での火葬が大勢の観客の前で執り行われフィナーレを迎えた。バリ人にとって、この儀式は一番大事なイベントであり、ガベン見学ツアーも観光の一つになっている。

3.ガランガンとクニンガン

滞在中に日本で言うお盆、ガランガン、クニンガンがあった。

ガランガンの前日まで各家では、ベンジョール（竹で作った飾り）を作り、家の前に立てる。日本の七夕のような雰囲気があり、違いは飾るものが果物や稲穂であり、自然を大事にするバリの心が感じられる。

ガランガンの日に、コテージのオーナーとスタッフの家に招待され、寺で行われる儀式に参加した。2 つの家族は裕福なファミリーと庶民のファミリーでバリ人の生活の一片を見たような気がした。



コテージのスタッフの家族と

クニンガンの日は以前スタッフをしていた女性が住むパクサパリ村へ行った。彼女のファミリーの温かい出迎えを受け近くのトランスで有名なパンテイ寺院へ行く。境内ではすでに大勢の人が集まり、すごい熱気である。

バラガンジュールの音が近づき、危険であるとの事で、寺院の入り口の門脇に移る。沢山の神輿は時とともに興奮度を増し、クライマックスに入る。担ぎ手の何人かはトランス状態になり、体を突っ張り、手足をばたつかせ、目はうつろになっているが僧侶が現れ、聖水を掛けると正気に戻る。担ぎ手も観客も大興奮のうちに死者の霊を送る儀式が終わった。

4. ウバチャラ、ポトン ギギ

ポトンギギとは、獣のような尖った歯を削る儀式で、日本で言う成人式のようなもの。ただこの儀式はお金がかかるため、日本のように20歳になればする式ではなくお金がたまったら行いうらしい。ただし死ぬまでには絶対にやらなければいけない儀式、今回は、8人の男女でドライバーの村で行われた。



ポトンギギの若者

ドライバーとは、以前からの知り合いで、この珍しい儀式の参加を勧めてくれた。式場へはバリの正装をして出かけた。村人総出でサテなどの料理を作り、8人の男女が化粧をして儀式用の衣装をまとい準備をしていた。我々は1万ルピアを払い記帳を済ませる。参加者は親戚、友人、村人達で、観光客は我々だけであった。厳粛な雰囲気の中、儀式が始まり目の前で歯を数本削られた。長期滞在者の日本人でも、この儀式に参加した人は少なく、参加できた事は幸運であった。

5. バレーボール

今回ウブド近郊で、インドネシアバレーボールの大会が開催され、選手の宿舎が我々の泊まっているプリダラムコテージに決まり、1週間ほど滞在していた。言葉は通じないが、毎日顔を合わせることで、親しくなった。インドネシアのスポーツは国技のバトミントン、サッカーに次ぎ、バレーボールが人気である。最終日の優勝決定戦に招待された。前日の試合

でエースアタッカーが足首を痛めたと聞き、日本から持参したシップ薬をテープで止めてやったお礼かもしれない。

チーム専用のバスに同乗し会場に向かうと、沿道の人々が手を振る。チームドクターになったような気分で我々も手を振った。会場は野外コートで、まるでテニスコートのようだ。

超満員の客席に案内され観戦、同宿のチームはなんと1位と3位になった。彼らの中にはインターナショナルチームに選ばれた選手もいる。試合終了後のセレモニーで最優秀選手に選ばれたのはなんと足首にシップ薬を貼ってあげた選手で我々も鼻が高い。

選手がトロフィーを持って、我々に感謝の握手を求めてきた。気分は最高だ！

翌日、マネージャーがユニホームを2枚プレゼントしてくれたが、サインをして貰うのを忘れ残念！残念！



ウブド出身のバレーボールの選手と

今回会員の方が大勢来られ、楽しい日々を過ごす事が出来ました。現在バリ島には若い日本人が多く滞在しておりますが、我々リタイア族はまだまだ少数です。医療、食べ物、危険度など問題はありますが、90%がヒンズー教のこの島に滞在していると、神々の国、楽園の島だと言われる事が体感できます。

同質の文化を持つバリ人との触れ合いを楽しみに…命の洗濯をしに…

会の皆様も1度バリに来られたら如何ですか！

主観的バリ島情報モドキ

東京都在住 会員No. 593 小林繁之

☆はじめに筆者の言い訳

「後悔先に立たず」と言う言葉の通り、今の私は強い悔悟の念に苛まれながら、定刻になると「オイ！593 番メシだ！」と呼ぶ家内の声にも怯え、うす暗く狭い部屋の中で高窓（と言っても我家には無いので換気扇の穴）を眺めつつ、深い溜息をつく毎日を送っている。

女性編集氏から「書いて！」と言われた様な気がした途端に断る気持ちが一気に萎えて、思わず「ハイ！」と答えてしまった訳だが、女性の頼みに抗し切れないと言う、何とも始末の悪い性癖を唯々反省するばかりのこの頃である。

バリでの私の経験は特化され過ぎており、一般的ではない。南国の会には私よりもっと深くバリを知り、文才にも長けた人がキラ星の如くである。特に何回もの長期滞在経験を有しバリを心から愛している石川氏ご夫妻、当地で家庭生活を営まれている長岡氏に比較すれば、私が知り得る情報等ものの数ではないし、私の拙い文章で機関紙の貴重なページを独占すべきではないとも考える。

かと言って今更退くことも出来ず、何らかの形にしなければと、大して広くもない胸を痛めている訳だが、幸いにして月毎の集会に参加し、毎日のMLに目を通してしていると、臍げながら形らしきものが見えてくる。それらの中で圧倒的な量を占める内容は「この国は〇〇が安い」「〇〇は観光客が激減しているので叩けば叩く程安くなる」等、値段のみが話題の中心になっているが、会の趣旨にある長期滞在と言う観点に立てば「それだけで良いか？」との思いを禁じ得ない。無論、経済的な問題も重要には違いないが、外国に暮らすと言う目的から考えると、滞在する土地の文化や社会、人々との交流について全く論じられず、興味の外に追いやられているのは何故か？と言う私個人の思いについて書きたいのだが、文章力など持ち合わせていない身にとっては余りに荷が重過ぎることも事実である。

そこで、参考になる真の現地密着情報は、先

述の石川氏と長岡氏に委ね、私はバリ島を通して知った人々や出来事を中心に、バリが我々日本人に身近な存在であること、又、日本と関係が深い存在であることに視点をおいて書こうと思う。したがって、この記事は情報満載のガイドブックには決して成りえない。あくまでも筆者の主観によるバリ関連情報モドキであることを読者諸氏には予め御了承を戴きたい。

☆起こし易い過ちアレコレ

南国の会は、広く南方の国々全般について移住や長期滞在に必要な情報を収集し、研究し活用する団体であり、他に同様の性格を持つ集団は無いと思われる。しかし、バリ島に限って言えば少人数の愛好者グループから数百名の全国組織まであり、各々が様々な形でバリの人々や社会、中にはインドネシア中央政府とも関係を持ちながら活動しているサークルや団体はザッと数えても十指に余る。

私自身もその中の幾つかの団体に所属し、微力ながら活動を手伝わせて貰う一方、バリ島についてのホームページを運営し、メールでは現地の親しい友人や関係機関の協力を仰ぎながら、一般旅行者や国内の旅行会社から寄せられる情報提供依頼や相談事にも対応している。それは、バリを訪れる人々が現地で快適に過ごして欲しい。バリの良さを出来るだけ多くの人に知って欲しいとの強い思いに駆られて私が勝手に行っていることであるが、その活動の中で、日本人旅行者が遭遇し易いトラブルや失敗には一定のパターンがあり、僅かな基本さえ心得ていれば全く無事であったケースが殆どであることを知った。

南国の会々員には釈迦に説法だが、以下にバリ旅行トラブル回避の基本を掲げておきたい。

●あらゆる危機は自己管理責任と言うこと

全ての海外旅行に共通する基本要素だが、残念ながら日本人の最大の弱点になっている。特に個人旅行の場合、旅の途上の出来事の一切が自己責任と言う自覚の欠落は最悪の場合、生命

の危機に直結する場合があるが、外国旅行の経験が浅い人ほどオンブにダッコに肩車の精神の持ち主が多いようだ。

長期滞在を希望する場合、弥が上にもこの問題に対する対応能力が要求されるため、自己責任とは何か？危機管理はどうすれば良いか？を先ずもって明確に把握することをお勧めしたい。

●事前調査の必要性

自己管理責任意識が希薄な人ほど事前調査に重点を置かないと言う傾向が顕著である。

旅を充実したものにし、安全と快適さを求めるには、目的地の土地柄、気候、政治情勢、対日感情、宗教、文化、生活習慣、更には泊まるホテルの設備や料金、移動のコースや交通手段に至るまで、詳細に調べておく必要がある。

事前調査の不足は、思惑違いや期待外れの事態を多発させ、不平不満として残ってしまう結果となる。ガイドブックを紐解くも良し、大使館に尋ねるのも良い。旅に備えて色々と調べている段階がまた楽しいはずだ。

●差別意識を捨てよう

不思議なことにアジアの一員である日本人の中に、東南アジア人蔑視の感覚を持つ人が多い。もし読者諸氏の知人でアジア人に対し「アイツラ！」又は同ニュアンスの言葉を吐く人がいたら、その人は間違いなく「蔑視感覚の持ち主」と思って間違いない。ソッと注意をしてあげて欲しい。

バリ人は誇り高い民族であり、差別意識を持つ人間とは決して相容れない。

海外旅行とは少なからず、他人の敷地に土足で入る状態に似た性格を持つことに留意し、現地の人々との交流や社会、文化を学ぶと言う謙虚さと、常に相手と同じ目線に立ち、何事にも紳士的に対応する意識が不可欠である。

●Yes・Noの意思表示は明確に

日本人の意思表示の曖昧さは海外では通用しない。かと言って威丈高になる必要もないが、紳士的にYesとNoを明確に相手に伝えるだけの語学力はやはり必要だろう。

外国の空港でよく見かける光景にポーターと

のトラブルがあるが、そうした類の人間の存在を知らなかったという調査不足、目前で他人に荷物を持ち去られるという管理能力不足、荷物を持たせても当然とする差別意識、即座にNoと言えない曖昧さが生む典型的な例である。

以上、海外旅行で共通するトラブルを列挙したが、私の記事の性格上、バリで頻発するものについても記す必要があると思うので、以下に数例を紹介する。

◎料金トラブル

個人旅行で最も多く起きるケースで特にホテル料金のトラブルが多いが、ひとえに事前調査不足のなせる業である。

特に留意すべきは、誰かにホテル予約を依頼した場合、宿泊希望地域、料金、設備等について条件を明確に示す必要がある。

希望と異なっていたら、誤解やトラブルを生まないために、言葉の通じないホテル側の人間と直接話すより、紹介してくれた人と紳士的に話すことが重要である。

思惑違いによるトラブル回避の方策は自らの事前調査によるしかない。

◎習慣の違いによるトラブル・風呂

夜、身体を温めると良く眠れると日本人は言うが、暑い国・インドネシアでは全くその逆である。従って高級ホテルでも風呂の湯が出ない。又は温いことがよくある。係員も実生活では水風呂が習慣のため、日本人のお湯に固執する気持ち理解されにくい面もあるが『郷に入っては郷に従え』の精神を実践することも旅の良き経験である。

◎習慣の違いによるトラブル・時間

バリでは時間がゆったりと流れる。それが好きだと言う人が多い。ジャム・カレッ（時間はゴムの様に延びるの意）と言う言葉がある位で、人々は時間に対して大らかだ。待合せの時刻に10分15分遅れるのは普通のことで、目くじらを立てても始まらない。逆にゆったりした時間の流れを楽しむ位のゆとりを持つと良い。待てないといって他の手段を講じた場合、生じた結果に全責任を負うと言う認識が必要だ。

◎バリ人の心

宗教心からか、バリ人は日本の一期一会に通じる気持ちを持ち、特に宗教が近い日本人との出会いを大切に、大変親切にしてくれるので、こちらも真心で接する必要がある、そのためには相手社会のルールや習慣をしっかりと身につけておくことが望まれる。

例えば、バリ人は決して争いを好まず、大声で怒鳴りあうことはしない。これを「隷従」と勘違いして笠にかかった態度を見せる日本人が多いが大いに反省すべき点である。

又、宗教上の理由から、可愛い子供の頭を撫でたり、不浄とされる左手で食物に触ったり握手をしてはならない。

◎誠意には誠意で、親切には感謝で

国内外を問わず、互いに誠意をもって接することは常識であるが、海外に出る日本人の中には稀に、恩を仇で返す人物がいる。

留意点の最後に、最近の事例を反面教師的材料として提供したい。

過日私の手許にバリのホテルから参考資料として一枚の請求書が送られてきた。それは、微々たる金額ではあっても、料金の一部を客の日本人が「故意に踏み倒した」ことを証明するに十分なものであった。誠意に対する回答がこれだと、相手が怒るのも当然である。旅の開放感から本人は面白半分かもしれないが、善悪は自明の理でこの客の行為は許されるものではない。

一度悪評が立つと、バリ島は横の繋がりが極めて強い土地柄である。「悪事千里を走る」の言葉通り、彼の所業は今後時間の経過とともに広く語り継がれることになるだろう。

★日本人女性旅行者から文化交流まで

これは絶対良質な企画になると信じ、十年近い年月をかけて追っている人物の一人に、三浦襄（故人）という人がいる。

バリを知る人は必ず耳にする名前であるが、彼は一民間人でありながら、戦前戦中を通じバリ人とバリ社会のために献身的に貢献し、日本敗戦の年の9月7日早暁「インドネシア独立の人柱となる」との言葉を残して自決し、今尚、

人々から、バリの父と慕われている人物である。

彼の足跡や功績を調べる過程で、私は島内に多くの知己を得た。

ある時、三浦襄を通して知り合った日本領事、州政府高官、警察幹部と一緒に食事をする機会を得たが、席上、話題がそれて日本人女性旅行者に話が及んだことがある。

領事曰く「毎日何人もの日本人女性が身の下相談に押掛けてくるが、原因を手繰ると女性のほうが悪いケースが殆どで嘆かわしい限り」と言い、それを受けて警察幹部は「初めてバリにきた若い独身女性グループの中で、次回一人で来る女性の目的はボーイハント」と言う。驚いている私に政府高官は「三浦襄をはじめ昔の日本人に対し、バリ人は理想の人間像を見ており、彼等を生み育てた日本の文化や伝統に強い憧憬の念を抱いているが、自分達の文化や伝統に誇りを持つバリ人から見て、今の若い日本人女性は日本人に対する評価を貶める以外の何物でもない。現在の日本にも自国の文化や伝統を愛し続けている人々が多いことをバリ人に見せてやって欲しい」と熱く語ってくれたが、彼の言葉は私を孤軍奮闘の文化交流活動に駆り立てるに十分な重さがあった。

この機会より大分前のことになるが、私は番組の企画として、日本人女性と、彼女達の相手となる悪名高きビーチボーイ 20 名にインタビューを試みたことがある。

日本人女性については読めば不愉快になること請合いなので御賢察願うとして、ここでは回答内容が興味深かったビーチボーイ諸君へのインタビュー内容をご報告しようと思う。

先ず人選は、日本人女性が多く集まる地域別に無作為に 20 名を探して一堂に集め、質問の内容は、出身地、家族構成、親の職業等の一般的なものに加え、何故この仕事を選んだのか？何故対象が日本人なのか？どの位続けるのか？日本人女性に対する感想は？に絞った。

基本の問いに対する回答はマチマチであったが、民族は、全員がジャワ人でイスラム教徒であった。何故この道に入ったかとの質問には殆

ど全員が、友人に誘われたと答え、何故日本人か？の問いに対しては「成功率が圧倒的に高く、支払いは全て女性、夜の御伴をして女性が金を払うのは日本人だけ、どんなに嫌な女性でも一週間でいなくなる」と涼しい顔。いつまで続けるか？については「若い内の5年、その間に金を貯め、故郷で別の仕事を始める」と結構真面目な答えが返ってくるが、日本人女性に対する感想については「カネヅル！」と異口同音に答える彼らに悲壮感はない。無論彼等の仲間バリ人が皆無とは言切れないが、ビーチボーイ、ジゴロと呼ばれる殆どの男達は、軽薄な日本人女性の噂を聞き他の島から出稼ぎに来たジャワ人で占められていたことに奇妙な安心感を覚えるのは何故だろうか？

★忘れ得ない人々

私がバリに通い始めて15年、訪問回数は35回を数える。何故それ程に通うのか？理由は一つ「好きだから！」の一語に尽きる。アバタも笑窪、惚れて通えば千里も一里である。

しかしこの間に私は、心からバリとバリ人を愛した多くの人々を知った。生涯かけて愛する人、命を賭けて愛し抜いた人、形は様々であるが、中にはバリ人の日本人観に強い影響を与え続けている人もいて、彼等のバリに対する愛情は、私の薄っぺらな思い入れ等とは比較にならないほどに広くまた重い。

私がバリに思いを馳せる時、必ず脳裏に浮かぶ人々を紹介したい。

◎三浦襄

戦前からバリに住む彼は、島民の絶大な信頼を得ていたが、バリに進行した日本軍にその人柄を見込まれ通訳として徴用されるが、彼は軍の物資調達命令を「注文」に置き換えて受注する三浦商会を起こし、運営の全てをバリ人に委ね、利益の全てをバリ社会の還元し、自分は一円たりと受け取ることがなかった。その一方で彼は、機会ある毎に「日本軍の援助で得た独立は、統治がオランダから日本に変わるだけ。真の独立は自らの手で！」と熱く説いた。青年スカルノ（後の大統領）とも親交厚く行動を共に

することもあったが、日本敗戦を知った彼は短い日程の中で、島内200ヶ所を巡る「お詫び行脚」に出かけた。謝罪内容は「日本軍の代弁をした自分を、敗戦で独立支援が出来なくなった日本軍を、約束を果たせずに日本に送還される兵士達を許して欲しい。老いた自分が全責任を負い自決してインドネシア独立の人柱となる」と言うものであった。

私の手許に残る彼の日記と遺書（コピー）の間からは、バリとバリ人に向けた彼の愛情の深さを読み取ることが出来る。

彼が自決を予告し実行した日は、日本軍がインドネシア独立を認可することになっていた日であり、彼の葬儀でバリ島全土に掲げられた半旗は、独立達成の暁に使用が決定していたメラ・プティ、つまり現在のインドネシア国旗がバリ島で初めて掲げられた日でもあった。

◎日本人兵士、スクラ&スクリ

日本軍がインドネシアを侵略するに当たり、「オランダの圧政からの解放」を錦の御旗にしたことは衆知のことであるが、敗戦後もその約束を一途に守り通そうと、收容所を脱走しインドネシア独立軍に身を投じた多くの日本人兵士がいた。

バリ島中央部に位置するマルガの地は、若きン・グラ・ライ將軍率いる独立軍バリ部隊がオランダ軍との戦いで壮絶な玉砕を遂げた場所であるが、今は英雄墓地として千数百の墓標が並び、その中にはスクラ・スクリ（日本名、松井・荒木）を含む11名の日本人兵士も眠っている。

彼らは收容所脱走后、決戦地マルガに向かう途中プナルンガンと言う村に立ち寄り、村人達から請われるままに、戦い方を指導し人々の厚い信頼を得た。彼等の死を知った村人達は総意で二人を村の守り神とすることを決め、村役場に慰霊塔を建て、又、村の一角ブルンバンガンの地には寺も建立した。

英雄墓地、役場、寺の三ヶ所に祀られることは極めて異例なことであるが、この村では今でも役場に勤務する者は月に1万ルピア、他は全員千ルピアを寄進してレンガを買い求め、二人

のために寺の横に新しい慰霊塔を建設中である。

◎ニョマン・ブレレン

日本名は平良定三と言ひ沖縄出身の元日本軍兵士である。

彼も又、国の約束を守ると言う信念から独立戦争に身を投じた一人である。しかし彼はマルガに参戦しなかったために戦死は免れたが、多くの友を失ったため、戦後は帰化してバリに留まり、生涯マルガに眠る友人の霊を守ることを決意した人物であるが、年齢80半ば、未だ壮健である。

三浦襄はじめ、ここに記載した日本人の生き様はバリ人に『日本人は生命に換えて約束を守る民族』と言う概念を植えつけていると言われている。

◎アントニオ・プランコ

4年前、77歳で他界した彼は著名な画家であったため日本の画壇にも彼を知る人は多いが、彼の人生の中で日本人と深く関わって生きた時代があったことを知る人は極めて少ない。

彼とは映画の企画で知り合ったのだが、一度胸襟を開いた相手は徹底的に信頼する彼の性格は私に通じるものがあり、バリ訪問の度に彼の自宅アトリエを訪ねるようになったある日、彼から「両家族とも知っている事だが、バリに移り住む前に2年間滞在した東京に、当時結婚を約束して果せなかった女性がいますので、現在の自分と家族の様子を知らせてやって欲しい」と依頼され、件の女性、キャセイパシフィック航空第一期日本人スチュワーデスの経歴を持つT.U女史に会って以来、三者の交流は続いたが、彼亡き今は、彼の妻ニ・ロンジ、長女チュンパカ、子息マリオの各氏との交流が続いている。

◎T. S. Simon

彼が私の職場に研修生として配属されて以来、30年以上の家族ぐるみの交流が続いている。

研修を終え盛岡に移った彼は、そこでホテル経営のノウハウを身に付けインドネシアに帰国するが、やがてバリに移りホテル経営とロケ・コーディネートとを興し、八面六臂の活躍を続けている。

彼のビジネス感覚には目を見張るものがあるが、自他共に認める親日家ゆえに日本人に肩入れし過ぎて時折痛い目に会うこともあるが、私には何者にも代えがたい無二の友である。

★バリ島に弘法大師がいたカモシレナイ話

飢饉の村を通りかかった旅の僧が、人々の難儀を救うため杖で地面を叩くと清らかな水が湧き出て、以来、豊作が続く村は栄えたと言う話がある。所謂、日本各地に点在する弘法大師伝説であるが、バリにも聖水の寺・タンパクシリンをはじめ数ヶ所に、僧が神であったり農民が兵士であったりの違いはあるにせよ、全く同内容の伝説が存在する。また島の北海岸にあるパンジャール村の寺院には、境内の石段に微かにHANNYA HARA MITTAの文字が読み取れ、般若心経が根付いていることを知ることが出来る。

ズッとこのことが気に掛っていた私は、本年7月、弘法大師の足跡を追うためにニセ遍路を経験し、各地で多くの人々から心温まる沢山の親切を戴いたが、強く感じたことは、四国の人々の暖かい心は、正にバリ人の日常的な心と同質のものであるということだった。

今尚バリ社会に脈々と受け継がれているゴットンロヨン（相互扶助）の習慣は、決してバリ人特有のものではなく、少し前の日本人の中にも「相手を思いやる」と言う形で確かに存在したことを思えば、両民族の近似性・類似性は、ルーツを同じくするバリのヒンズー教と日本の仏教の教義の共通性にある気がしてならない。

他にもバリとの共通点は、特に沖縄の地に多く見られる。沖縄から九州に広がった赤米はバリを原産地とすることが定説であるし、バティックの染色技法は紅型と言う形で沖縄に定着している。又、身近な生活習慣の一つである墓参の形も沖縄のそれと酷似しているし、九州地方にも似ている場所が多い。

これらのことは、太古の時代に黒潮の流れに乗って文明や人がバリやジャワ等から南方の島々を経て沖縄まで伝わったことを示すものであろうことが容易に想像できる。

現代、海外旅行に出掛ける日本人が多い中で、

バリ島のリピート率は他の地より格段に高いが、バリ人が日本に関心を持ち、多くの日本人がバリ島を慕うと言う現象の底に流れるものは、意識の下で互いに惹かれあう民族の共通した心があるのではないか？そんな気がしてならない。

★何故バリはヒンズー？&芸術・芸能は？

バリ島の人口300万人のうち93%が敬虔なヒンズー教徒であるが、国全体の人口、1億9000万のうち90%がイスラム教徒という中で極めて特異な存在であり又そのことが、バリ人の温和な民族性や社会の平安を作り出している。では、その特殊性はどの様に形成されたかについては凡そ次の様に考えられる。

西暦紀元前後100年頃、インド南部から高度な文明とヒンズー教及び仏教がもたらされ、インドネシアにおける文明の曙となったが、7世紀にはスマトラ南部を中心に強大な仏教王国が興り14世紀頃迄栄えた。又ジャワでも8世紀にシャイレンドラ、マタラムと言った王国が栄え、当時建立された世界最大最古の仏教遺跡・ポロブドゥールやヒンズー遺跡・プランバナンは当時の隆盛を今に伝えている。その後1239年に勃興し14世紀後半に黄金時代を築いた東部ジャワのマジャパイト王国によって、国全体にヒンズー・仏教文化の隆盛がもたらされたが、15世紀後半、同王国に衰退の兆しが見えた頃、マレー半島から渡って来たアラビア人によってイスラム教が伝えられ、瞬く間にマジャパイト王国を滅ぼし、イスラム教は急速にジャワ全体に勢力を拡大していった。

イスラムへの改宗を嫌う王国の末裔、僧、芸術・芸能家及び知識階級の信徒達は東方への逃亡を余儀なくされ、彼らは海峡を隔てたバリ島に安住の地を求め、イスラムの攻撃から宗教と自らの身を守るため、より一層結束を固めヒンズーの教義に極めて忠実な生活を送った。

ヒンズー教における絵画や彫刻などの芸術作品は常に神々への捧げ物であり、音楽や舞踊等の芸能は俗世の人々と神々を結び交信するために欠かせない手段である。

絵画や彫刻等の言わば特殊技能者集団が海か

ら遠い山間部に専門別に固まって居住する状態は、当時の人々が神々への帰依を貫くために、異教徒の攻撃を逃れ住んだ名残ではないか？

★バリの旅・いろいろ

日本との関連が深い歴史的事実や伝説、その中に登場する様々な人物を知り、それらを更に掘り起こし調査を進める。これが私流のバリ島への旅の形である。旅は人夫々、色々な形があつて良い。雄大な自然を満喫する旅、寺院巡りや芸術・芸能を堪能する旅、山ではトレッキング、海ではマリンスポーツ、更にはエステ、グルメ、ショッピングも手近で気軽に出来、ゴルフも存分に楽しめ、超豪華ホテルのリッチなリゾートライフも良いだろう。バリでは人を楽しませる材料に事欠かない。僅か東京の2.5倍の面積にあらゆる観光要素が詰まり、しかも奥深い。

しかし反面、余りにもポイントが多いため漠然と過ごしては結果的に何も掴めない旅に終わりがねない。滞在期間の中で何をするかと言う明確な目的を持って行動することが重要である。

★最後に再び筆者の言い訳&感謝

今、私が進めている文化交流体験ハウスについても触れる様にとの声もあったが、誤解を避けるため、あえて割愛させて戴いた。

以前、事務局に依頼され、体験ハウスについてお話させて戴いたことがあるが、以来、私が営業のために入会したと考えておられる方がいるとのこと。私は自分が所属する団体内で営業するつもりは毛頭ない。空いている時にはご自由にお使い下さいと言っただけなのだが、私の不徳で真意が届いていないようだ。請われるままに話した私が軽率だった訳だが、大いに反省し今後は会内で体験ハウスについて発言するつもりはないので、誤解だけは解いて戴きたい。

最後に、稚拙な文章に最後までお付き合い下さった方々に心より感謝申し上げたい。紙面の都合で省略した項目もあり、バリ島について書き尽くしたとは到底思えないので、ご不明な点についての御質問は、街のコンビニエンスストアと同様に、年中無休、24時間受け付けでお答えすることを申し添えたい。(終り)

バリ島滞在基本情報

バリ島在住 会友 長岡美和子

はじめに

バリ島は「神々の島」というフレーズの元、沢山の観光客が訪れる観光の島というイメージがありますが、実際には「移住」「長期滞在」を選択した外国人の大勢住むコスモポリタンな場所なのです。

バリを選んだ方が一様に言うセリフは「バリ島に導かれた。ここは説明できない魅力のある所だ」。う～ん、一体何なんでしょう！？

ともあれ、バリ島に関わりはじめて9年になりますが、急激に便利になってきた事は間違いありません。ロングステイヤーにもほぼ安心してお勧めできる環境ですので、紙面をお借りして南国の会の皆様に、必要基本情報をお伝えしたいと思います。

住環境/家

ロングステイを考える場合、選択肢は「一軒家を借りる」「長期滞在用ホテルの一室を借りる」「レンタルコテージを借りる」「安宿と交渉して一室を借りる」が一般的です。残念ながらコンドミニアムやマンションはまだありません。

まず一軒家とレンタルヴィラなどの探し方ですが、①英文フリーペーパーの不動産情報P、②バリポストという地元新聞の売り買い情報P、③不動産屋④自分の足（レンタルと貼っている家を探す）⑤現地の人間のロコミに頼る・・・が挙げられます。②以外は英語がある程度できれば問題ありませんが、最近は日本人の経営する大手不動産屋も出来ましたので、そういった所に相談するのが一番お勧めです。

支払い方は、一軒家の場合は最低1年契約で全額前払いが普通です。修理や設備の補充などの交渉は事前に行い、正式な文書にして契約を交わすのがベストです。たちの悪いオーナーだと、最初は良い事ばかり言っていていざ何か故障すると修理代を出さないパターンがあるからです。我が家も一度失敗しました(苦笑)。

料金は地域と間取り・設備にもよりますが、

日本人がOKと思える程度の清潔さ考えると、2LDKで大体1年/Rp1500万～(¥20万強～)だと思います。



一般的な貸家の例

上記の借家は、繁華街に近く買い物にも便利なプルマハン(集合住宅地)内の一軒家ですが、3LDKでACが二つに屋根付き駐車場という条件で、Rp3500万(¥50万)/2年です。これが平均値ですね。家具の有無やバスタブ・水洗トイレも家によりますのでしっかりチェックを。

しかし異国での一軒家暮らしはかなりの不便を強いられます。その点お勧めなのは、やはり「長期滞在用ホテル」を借りる事です。セキュリティの心配も少ないですし、設備もよく支払いも月単位でメイドサービス付き。楽です！

サヌールの「サヌールプラザスイート」やヌサドゥアの「バリガーデニア」、クタの「コートヤード」や「レジデンスジャヤカルタ」が特に有名で、1ベッドルーム+リビング+キッチン他の設備で最低US\$680~/月(朝食込み)からあるようです。

或いは最近日本人が自分の別荘兼レンタルコテージとして建築した物件を賃貸するケースが増えていますので、現地でロコミを利用して探してみるのもいいかもしれません。但しサービスやクオリティ、信頼性の問題を含んでいるので(同胞だから良い人間とは残念ながら限りません)、よく検討することが大事です。

他に「安宿を交渉する」方法ですが、これは

ある程度バリ島をご存知か、気心のしれた定宿をお持ちの方には良いかと思えます。

ともあれ、特に住まいに関しては、自分が外国人であるという自覚のもと必ず周囲の信頼できる人間に事前に相談しながら、契約など法律的な部分は専門家に依頼して物事を進めていってください。

☆ 参考 ☆

日本人の経営する正規の不動産屋

HOUSE OF BALI UBUD (相良直美さん)

TEL&FAX 62-361-974478

住環境／車

バリ島は道路は日本と同じ左側通行で、車も右ハンドル。しかも日本車メーカーが圧倒的でその点は親近感なのですが、免許をお金で買ってるような国なので交通事情が悪いのです。中でもバイクは最低。ですからもし滞在中車を借りるなら運転手を雇うことを絶対にお勧めします。運転手の給料は、最低で Rp60 万～(¥8,500)程度からで、条件によってアップしていきます。英語は当然、日本語も少し話せる運転手を探せば、かなり移動が楽になると思えますよ。車のレンタルの場合は、下の写真のトヨタ・キジャン(一番人気の車)で Rp15 万~/日で、エンジンなどコンディションは必ず確かめてから借りましょう。保険は別ですが必ず加入を！

運転免許は、日本人で免許を持っていればバリ島内限定で1ヶ月のツーリスト免許を発行してもらえます。料金は Rp20 万程度。



トヨタのインドネシア仕様車

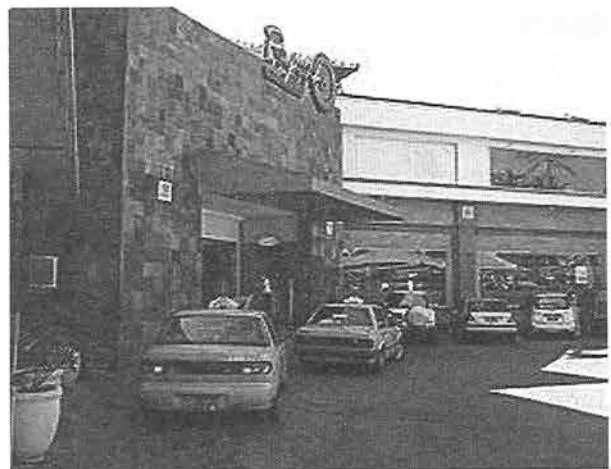
買い物事情

インドネシアはインフレ率がここ1～2年、年平均 10%を切って、だいぶ安定してきました。

バリ島は国内一位の物価高と言われますが、それでも日本と単純に比較したら、食べ物や雑貨はかなり安いです。一般のバリ人はパサール(市場)で食材を買いますが、私達外国人には基本的に不向きなので、まず、誰でも定価のスーパーを中心に食関係をお知らせします。

大型ディスカウントストアは2軒、会員制の「マクロ」と普通のストア「アルファ」です。どちらも品数豊富で駐車スペースも十分あり、連日買い物客やレストランなどのスタッフのまとめ買いで賑わっていますね。

デパートでは「マタハリ」が有名で大きく、食材もなかなか揃っていますが、最近「ペピート」に圧されているかも。この「ペピート」は少し金持ち向けの高級スーパーで、日本や韓国の食材も少し置いているのが便利です。敷地内にクリーニング屋があるので、買い物ついでに出すのが私の日課です。



トゥバン地区のスーパー「ペピート」

日本食屋が沢山ある島ですから、当然専門の食材屋も存在します。普通に店舗を構えているのは「コスモ」で、空港近くのジンバラ地区。ここでは「コクホ」米やカリフォルニア米から冷凍食材が買えますが、日本人スタッフがいないせいか、賞味期限を大幅に過ぎたものも平気で置かれています。買う場合は必ず期日をチェ

ックして下さい。もう1箇所はレストラン卸中心の「ますや」。日本酒や焼酎も数多く揃えていて、注文すればジャカルタから新鮮な素材も届けてもらえます。日本食を自炊するのもそれほど困ることはありませんのでご心配なく。

また、食材+洋・中華惣菜の専門店も出来て、欧米人を中心に流行っていますが、味は個人的に???ですね。輸入食材を楽しむ店として覚えておかれたらいいかもしれません。



洋風総菜屋・バリデリ

電化製品は、日本と同程度か少し高めの商品もあります。デンパサールには電気店街があり、日本製や韓国製・中国製も台頭して置かれていますが、いかんせん国内に競争原理があまり働いてないため、大型値引きはしてもらえません。また、補償期間は長くて1年。安い品だと「そんなものは無い」といわれてしまいます。

接客態度が日本とまったく違い、頭にくる場合もありますが、そこは根気強く相性のよい店を探して歩きましょう。

PCは、メーカーではIBMやマックを中心にデスクトップが売られていますが、多くは無名ブランドのディスプレイとハードディスクのセットです。ノートパソコンはほとんど見かけません。US\$建てなので、メーカーものは高く感じます。

次の表は、2003年7月現在の物価です。食材はペピートやアルファの値段で、電化製品は一般小売屋での平均値です。どんどん値上がりするので、あくまでも現時点での目安にどうぞ。

¥100=Rp7,000

| | |
|------------------|---------|
| 秋田こまち (5 Kg) | 103,500 |
| アクア(水)10L | 8,500 |
| サラダ油 | 30,900 |
| パン粉 | 9,900 |
| とんかつソース | 34,300 |
| ねりワサビ | 22,000 |
| インスタント味噌汁(4袋) | 22,400 |
| 削り節 | 22,600 |
| そば(乾麺) | 13,500 |
| そうめん(乾麺) | 15,500 |
| 味付けのり(4枚入 10包) | 43,500 |
| どん兵 | 25,300 |
| カップヌードル | 22,900 |
| ツナ缶(ライト 80g) | 19,900 |
| キューピーマヨネーズ(500g) | 61,000 |
| ミツカン本照り(250ml) | 28,900 |
| キッコーマン醤油(150ml) | 21,800 |
| 甘ラッキョウ | 18,500 |
| 越後の切り餅 | 61,500 |
| かまぼこ | 20,700 |
| おあげ(3枚) | 10,900 |
| 水戸納豆(100g) | 8,800 |
| 冷凍しゅうまい | 44,000 |
| 鶏肉(骨付きモモ)250g | 10,000~ |
| 豚肉(フィレ)100g | 4,000位 |
| 大根(小型2本セット) | 2,800 |
| キャベツ1個 | 2,400~ |
| じゃがいも(100g) | 6,400~ |
| 森永豆腐 | 18,500 |
| 卵(10個入りパック) | 7,000 |
| 食パン(1斤) | 4,500 |
| 砂糖(1袋)国内産 | 4,000 |
| バリコーヒー(大袋) | 15,000位 |
| クリーニング(Yシャツ1枚) | 2,000 |
| Tシャツ1枚 | 15,000~ |
| 男性用下着3枚セット | 6,000~ |
| 体用石鹸 | 2,000~ |
| シャンプー(ライオン) | 8,000~ |
| 洗濯用洗剤(2kg) | 12,500~ |
| 蚊取り線香(5箱) | 15,000~ |
| トイレットペーパー(10個) | 20,700~ |
| ティッシュペーパー(250枚4) | 24,200~ |

| | |
|--------------|------------|
| 電子ジャー(国産) | 210,000~ |
| エアコン(松下) | 2,800,000~ |
| プロパンガスボンベ | 38,500 |
| 国際電話(イ→日本)1分 | 11,000 |

病院事情

ロングステイを考える方にとって、最大の関心事の1つが病院ですよね。バリ島には外国人向け外来医療施設と、病床を持つ国立総合病院、私立病院がありますが、特に外人向け施設には全て日本人アドバイザー（看護婦）が常駐しているので言葉の面の不安がなく、また多くの保険会社と提携しているので加入していればキャッシュレスで治療を受けることが可能です。

その中でも、ジャカルタに本院を持つ「JKMC(ジャカルタ共愛メディカルセンター)」はバリ島初の日本人女性医師を配置し、日本の健康保険の申請書も診療後に作成してくれるなど、細かい配慮がありがたい施設です。

☆ 参考 ☆

日本人医師のいる医療施設

JKMC (ジャカルタ共愛メディカルセンター)

TEL 62-361-766591

HP 0816-473-4997 (日本語ダイヤル)



日本人医師のいる病院

但し、残念ながらバリ島の病院のレベルは高くないようです。国立も私立病院もともに外国人に対して理不尽なほど高額な医療費を請求するにも拘らず、日本のような治療はほとんどが期待できません。国立病院の救急センターやVIP ルームは清潔で、医療機器も日本の援助で立派ですが、できれば海外への緊急輸送をカバーする保険に加入しておくことを強くお勧めします。もちろん、通常のケガや疾病・出産等への対処は問題ないのでご心配なく。

語学学校

外国で暮らす中で、現地の言葉を知ると知らないでは楽しみ方が変わってきます。幸いインドネシア語は割合と簡単な言葉と言われてるので、少しがんばって覚えれば、周りのバリ人の接し方も更に暖かくフレンドリーになること請け合いです。



イチオシの語学学校アングン

このアングン語学学校はバリ初のカルチャースクールとして、インドネシア語・日本語・英語の他にバレエやバリ舞踊・ヨガ・空手講座等があり、在住日本人を中心に多数入学しています。併設のカフェは本格的ケーキやコーヒー、軽食が用意され、気軽に1人でも立ち寄れる雰囲気ですし、なにより主催者が3人とも日本人女性で在住歴も長く、各種相談にも応じてくれる点が評価できます。事実、長期滞在や移住者でいつも賑わってますから、友人作りにフラッと行かれるのもいいかと思えますよ。

相互扶助精神をモットーに活動の輪をどんどん広げていくアングンは、今後バリに欠かせない場所となるでしょうね。

ちなみにインドネシア語講座は、週1回1時間*4回で月 Rp 20万。バレエやバリ舞踊も同じ料金です。語学のマンツーマンレッスンにも対応しているそうです。

☆ 参考 ☆

アングンバリカルチャーハウス

TEL 62-361-763299

校長 幸子シャムスディン

美容院

以前は髪をどうしよう？と悩んだものですが、最近は美容師経験者がどんどんバリで開業しているので、これも安心材料です。中にはパーマ液など全て日本から取り寄せ、同等のクオリティを維持している美容師もいて、女性には嬉しい限りですよ。

銀行口座

基本的には在留許可証を持つ外国人のみ口座開設できるはずですが、実際は銀行によってはパスポートがあれば簡単に作れるようです。但し年8%つく定期預金の恩恵に預かる為には、なんらかのビザを持っていないと難しいと聞いています。定期の金利は1ヶ月ものも12ヶ月ものも何故か同じで、ルピア建ては平均8%、US\$建て貯金は少し前まで3%台でしたが、今はもっと下がっています。

それでも日本と比べたら夢のような数字の為、定期にある程度預けて利子だけで暮らせると、移住した知人が話しておりました。羨ましい・・・。

ビザについて

この会報が皆様の手渡る頃には確定していると思いますが、10月から観光ビザ(査証免除)が廃止となり、到着ビザ(いわゆる有料観光ビザ)が新たに開始される予定で進んでいます。

現在は60日間まで査証免除で延長不可、その為、長期滞在を希望する場合は60日後に一旦外国に出て再入国するか、イ人のスポンサーを得て最大180日間滞在可能なソーシャルビザ(社会文化交流ビザ)を取得するケースが大半です。

また、アジア各国に倣って「リタイアメントビザ」も創設されたので、取得する人も少しずつ出てきているそうです。

このビザの主な条件は①55歳以上である②US\$1,500/月以上の年金証明、又は同額の収入が毎月あるという証明③US\$500/月の家を賃貸するか、US\$35,000以上の家を購入する④生命・健康・損害保険に加入する⑤イ人を1人

以上雇用するなどです。1年間有効で5年まで更新可能。取得料金はエージェントによって異なりますが、大体Rp1,000万(¥14万)程度です。

個人的には、「移住」でない限り半年に一度は外国へ出るソーシャルビザで十分ではないかと思えます。

サークル等

テニス、野球、サッカー、空手、ヨガ、囲碁などのサークル活動があります。特に囲碁とテニスは日本をリタイアしてバリに住んでらっしゃる方が多いですね。野球・サッカーと共に国内他地域の日本人サークルと頻繁に対抗試合をするなど活発です。

他にはグンテルという楽器の演奏サークルがあり、去年は日本公演も果たしたはず。毎日ゆっくりするのもいいですが、時々参加されるとリフレッシュするかもしれませんね。

現地情報誌

観光客向けとあなどれない現地発情報誌。在住者にもタメになる内容で、定期的にチェックしておけば何かと役に立ちます。

一番のお勧めは下記の「HISバリフリーク」。1ヶ月1回発行で、日本人女性ならではの感性和情報の速さ、内容の面白さをウリに先頭を走っています。他には英字情報誌「バリアドバタイザー」。特に不動産情報が多いので、レンタルハウスを探すときなど重宝すると思いますよ。



一番人気の情報誌 HIS-BALIFREAK

日本人会

およそ 3000~4000 人の日本人が住んでいるバリ島ですので、日本人会も存在します。法人部と個人部に分かれ、法人部は日系企業用、個人部は会費 (Rp80,000) を払えば誰でも入会できます。サヌール地区に事務所があり、蔵書の貸し出しや各種サークルの入会等のメリットがあるそうです。

ただ、個人がふらっと行っても相手をしてくれる日本人スタッフは時々しかいませんし、トラブルシューティングに力を発揮した事例もあまり聞きません。サロンもありません。ですので、別段入会を強くお勧めするものではありませんが、ご興味のある方は下記へコンタクトを。

☆ 参考 ☆

バリ日本人会連絡先

TEL&FAX 62-361-281928

月~土曜 10時~17時

日本の情報

バリでは、衛星放送に加入すればオプションでNHKワールドが観れます(月 Rp14 万程度)。また朝日や日経新聞の国際衛星版を1日遅れで購入可能。その他にじゃかるた新聞という、現地発日本語新聞もあります(Rp 1万)。書籍店はまだ残念ながらありませんが、インターネットの時代ですから、情報を得るのはそれ程難しくありません。

—最後に—

バリ島において

異国に住むという事は自分が日本で培ってきた価値観が通用しないことであるという当たり前の現実に、随分慣れないまま過ごしてきたように思います。しかし憤慨してもムダなこと、だってここは異国だから。相手に乞われて来たのではなく、自分の意思で滞在する以上、バリの慣習を尊重して周囲と仲良くやっていく姿勢が肝要だと、自身も含め数々のトラブルを見聞きして強く感じる次第です。つまり、トラブルが起きる要因には、外国人側の考え方や態度にか

なり問題があるケースも多いということです。

トラブルで多いのがなんといっても不動産。外国人は土地の名義人になれない為、購入する際に「現地の信頼できる人間」の名前で登記して、謝礼を払って後は自分の好きに使うはずが、家を建てた途端に追い出される。或いは土地権利書を勝手に借金の担保に使われる。現在でもまだよくある話で、まさしく典型的。そしてほとんど泣き寝入りで、失意の帰国をされる方もおられます。不動産という、本来慎重に検討してプロに依頼すべき事を何故かバリにいと安易に考える方がいらっしゃると思いますが、くれぐれもご注意を。

買い物や安宿での過剰な値切りもトラブルの元です。値切るのが生きがいとばかりに交渉し、結果を自慢する人がいます。そういう方に限って態度も不遜。基本的には穏やかなバリ人も、あまりひどければ怒るのが当然。外国人が現地の人間を怒らせたら大変なことになりますから、自覚と節度を持った行動をすべきと思います。

バリ好きで長期滞在したくて来た人も、観光とは違う現実を見て、止めることもあるそうです。日本もバリもどこも同じ。良い人もいればとんでもない人もいますよね。

しかし、案ずるより生むが安し。先に心配ばかりしていたら何も始まりませんし、それを超えた魅力がバリ島にはあると、在住の皆さんがおっしゃいます。

まずは一度試しにいらしてみてください。穏やかで、昔見たような景色が沢山残る島。物価もまだ安く、過ごしやすい気候で、ゆったりした時間を送ることの出来る場所。一方で無国籍な楽しみを味わえる街。進化する中心部と、以前のまを保つ田舎を上手に併せ持つところ。それがバリ島だと思います。



南太平洋・サモアの滞在事情

愛知県在住 会員 No. 643 鈴木憲介

タロファ こんにちは、皆さん！
愛知県の鈴木憲介（56歳）と申します。



娘と息子と一緒に、ハイポーズ

中古の家電製品を外国人に販売している自営業をしており、いつでもたたんでよい仕事をしています。というのは、何時かはこの仕事を止め南太平洋サモアに行き骨をうずめようとおもっているからです。

知多半島に住んでいる事もあり東海地区の支部長・横井さんとフツした事で知りあい、今回晴れて会員になりました。会員番号は643です。

まず私のことですが、生まれは山梨県諏訪町(昭和22.6生まれ—5歳まで)です。育ちは茨城県七会村(5歳から小学校1年まで)・秋田県協和村(小学校)・宮城県宮崎町及び白石市及び名取市(中学から20歳まで)と転居しました。親父がマンガン・銅・石灰などを産出する鉱山に勤めていましたので閉山の度に、次の新天地を求めて引越しました。現在実家は岐阜県大垣市ですが本人は、仕事の都合で名古屋の南、知多半島の一角、阿久比町に住んでいます。このように小さい時からの度重なるの引越しによる生い立ちが今の私のどこにでも住めるという、具現化の元になっているかもしれません。

さて、昭和43年に宮城県の国立工業高等

専門学校を卒業、京都の電機会社に就職、大型コンデンサの開発業務に携わりました。当時、絶縁材料PCBに替わる代替品開発で、毎日PCBづけになっていました。今考えても恐ろしく思います。また大阪の住友電工に出向などもあり約10年の社会生活がありました。そしてあるアメリカ人と運命的な出会いがあり、人生を考える機会がありました。その結果、会社を辞め海外の旅にでました。当時1970年代後半、30歳前半の私でした。まったく世界一周の旅のつもりが南太平洋で結論的に沈没となってしまったわけです。

まず半年をかけ、フィリピン・タイを始めとする東南アジア各国を回り、オーギー、ニュージーから南太平洋にはいりました。そしてしばしの休みのつもりで、南太平洋王国制のトンガに2年逗留、私立のアテニシ大学というところで若いトンガ人とともに学びました。

トンガを基点にして、近隣の島を旅しました。どこでも歓迎されました。常夏で人々ものんびりで人懐こくフレンドリだし、とっても居心地が良く性にあいました。若さもあつたので、女の子にもてました。また、ここ南太平洋の島なら何でも小規模だし「何か私にも出来そう」という勝手気ままな感触をもつかみました。そして人生は一回きり、面白おかしく生きるのもこれまた人生と言う事で、南太平洋をライフワークの場所にしようという結論・沈没になった訳です。

さて将来住むのはどこにしようかと、いろいろ考えました。ポリネシア人には妙にウマがありました。フィジーの商売上手のインド人とはどうも合わないと感じました。其の結果、ブラッット行ったサモアが島として、トンガより大きい(人口サモア17万、トンガは10万、フィジーは約85万—半分はインド人)日本と似ていて議会制だし、むしろ民主的なので外国人の私には自由が利くのではと思い、こちらに住む事に決めました。



サモアの位置

南太平洋といっても、ずいぶん広く、私の関係したトンガ・フィジー・サモア・アメリカ領サモアの4島に加え、クックアイランド・バヌアツ・ニューカレドニア・キリバツ・トケラウ・タヒチ・イースター島など多岐にわたっています。何千年前にインドネシア方面から渡ってきたといわれるポリネシアの民はトンガ・サモアに定住し、その後ハワイ、ニュージーからタヒチ、はてはイースター島まで広がったといわれます。

サモア人について 少し暑く温暖な気候、海産物と山にあるタピオカやタロイモなどの豊富な食料、ストレスの無いノンビリした毎日の生活により、トンガ・サモアのポリネシア人は小錦（両親ともサモア人）、武蔵丸（お母さんサモア人、お父さんトンガ人）に代表されるように、年齢を増すとともにズドーンと太るようです。

言語的には現地語がありますが、小学校から英語教育がありますので若いひとなら英語を理解します。それも、彼らにとって第2言語ですのでブロークンと考えてもよろしいでしょう。もちろんパーフェクトの人もおられます。彼らの簡単な日常生活用の現地語（たとえば タロファ：おはよう、こんにちは / ファアフェタイ：ありがとう）などを覚えめすと、なおさら楽しいコンタクトになるのではないのでしょうか。

さてサモアではサモア人の嫁さんを貰い子供もできました。何かせんとアカンという事で写真屋を経営し生活費を稼ぐことにしました。学生時代に写真の暗室作業をやったことがこんなところで役にたちました。

おもしろくも、おかしい、たのしい生活が14-15年続きました。子供も生まれました。この間何度か写真材料の仕入や日本の家族に会いに日本には戻っています。

ある日、親父が老齢でもう危ないというので約10数年前、一家の長男という事もあり、嫁さん、小さな子供達の一族郎党を連れて日本に戻りました。老いた親父を見ながら、ここ日本で生活をはじめました。サモアの写真屋は暫く嫁さんの妹に見てもらうことにしました。

ここ10年、紆余曲折はありました。日本での仕事も何度も変わりました。現在は5人の子供のうち1人は巣立ち、2人は私が見て、嫁さんはサモアで2人の子供達を見えています。なぜかという、嫁さんの父親（島での酋長）が4年前に亡くなりました。この機会に日本の生活に割りとなじめなかった嫁さんをサモアに返すのがベターと判断した事です。

行き方 先日、名古屋の友人からサモアに連れてってというたつての願いをかなうべくゴールデンウィークの真っ只中、サモアまで一緒に行ってきました。サモアへ行くには、直行便は無く、フィジー経由、ハワイ経由、ニュージーランド経由といろいろあります。何処経由にするかは、旅行を何日間にするかや費用にもよります。ハワイを楽しみたい、ニュージーにいる友人に会いたいと都合もあろうかと思いません。その時の懐具合とニーズに応じて旅程を決めています。

まずフィジーまで 今回の旅はフィジー経由で4月末から2週間と短い旅でした。KORエアーで名古屋-フィジーまで7-8時間12万円（往復料金、ゴールデンウィークをはずせ

ば10万円円ぐらいともっと安いはず)、そこから乗り換え、サモアまで約2時間5万円程度でした。フィジーのナンデー市では乗り換える都合により宿泊となりました。フィジーまでの往復なら日本のHISなどで簡単に切符もとれます。しかし、サモアまでとなると若干ハードルが高くなります。フィジー以降の旅は現地のトラベルエージェントにFAXでたのみました。ナンデー空港に着くとそれほど心配する事なしにエージェントが待ち構えていてくれ、そこでサモアまでの往復切符をもらいました。またエージェントの紹介でナンデー市にある2-3星級のホテルを紹介してもらいました。少し割り引きがあります。プール付き、部屋も綺麗なものでした。一部屋80ドル(1Fドルは約75円)を友人とシェアしました。

ナンデー市のホテルはピンからキリまであります。探せば、アパートメント形式のホテルで¥1500/DAYも可能です。またネゴも可能です。ナンデー市から首都スバ市に向かい南コースをとれば海岸地帯に高級ホテル郡があります。またナンデー市の北方にはヤサワアイランドという島々からなるリゾート地もあります。なおナンデー市には日本人によるトラベルエージェントもあったはずですので、日本からコンタクトすれば、言葉の問題も無しに切符も簡単にとれるでしょう。今後の課題です。

サモア入国と長期ビザ サモア入国では観光ビザならエアポートで1ヶ月もらえます。もう少し長く滞在するには、ビザの切れる前に入国管理事務所に赴き延長を申請します。此れは可能です。サモア人からサポートする旨の書類が必要です。私が当地にいれば事は簡単ですが――これで2ヶ月は安泰です。もう少し長く滞在したいなら、隣のアメリカ領サモアかトンガ王国に一度出国し、また戻ればことは簡単です。少なくともまたサモアでの1ヶ月の滞在はOKでしょう。

10年ほど前、銀行にある程度のお金を貯金

したスウェーデン人だったかが、移住を目的にロングステイしたことを耳にしました。現在どうなったかは分かりません。サモアではマレーシアやフィリッピンのように政府が海外の年金者などに移住の許可を与える優遇措置は公にはないと思います。今後、南の会のプロジェクト(?)として機が熟せばサモア政府に働きかける試みは面白いと考えます。

私的には作家の日本人家族が3年あまりのロングステイをした事も前例としてあります。サモア人からの強力なサポート、及びサモア人の仕事と競合しない事、サモアに役立つ事、サモア人との共同出資による会社設立などの申請があつて初めて長期のビザは可能です。小国なので在日サモア大使館は日本にはありませんのでまず観光で入国した後に手続きすることが現実的です。

島々へのホッピング 少なくとも今回の旅行ではフィジーでは黙っていても4ヶ月の観光ビザ(普通なら4ヶ月の観光ビザ、その後延長申請で2ヶ月)のスタンプをもらいました。トンガでは、普通の観光ビザならエアポートで1ヶ月、その後、入国管理事務所にて延長申請で5ヶ月もらえることから、これらの島間を移動していれば、すくなくとも半年近くの優雅なロングステイが可能となるのではないのでしょうか?ただこれも当然ながら有効な旅券、出国を証明するエアチケットが必要です。

このような事から、入国管理的にやさしい順にトンガ・フィジーその後にサモアの順になると考えます。

フィジー・サモア・トンガは飛行機でもトライアングルフェアというのが有りこの3島に関し、どちらまわりでも回っても550USD程度(6ヶ月有効?金額も確認必要)です。フィジーはリゾート地での生活、サモア・トンガでは、ヌックアロファ市やアピア市にとりあえず居をかまえ、たまに遠出するかして、ポリネシア人の中にドブプリ入った民宿やホームステイを基調に生活するというのも面白いもので

ガでは、ヌックアロファ市やアピア市にとりあえず居をかまえ、たまに遠出するかして、ポリネシア人の中にドブプリ入った民宿やホームステイを基調に生活するというのも面白いものです。このように島々をホッピングして歩きまわると興味ある異種の文化に触れます。必ずや個々人で異なる感激する出会いがあるはずで

気候 南に位置するトンガは、私の2年の経験で最も住みやすい気候という印象をもちました。フィジー・サモアは緯度も赤道にちかくなりますので少し暑いでしょう。サモアでは10月から4月にかけては雨季のシーズンになり、時折スコールが有り天候は曇り雨がちで湿度も高く時折り太陽がカンカンに照りつけます。この時期、直射日光のもとで10分も歩けば、ハーハーゼイゼイ犬の如し、木陰が恋しくなります。しかし年中を通じて夜は一定の気温（22度以下は下がらないといわれています。）で、過ごしやすいです。また5月から10月にかけてはサモアでは乾季になり、一日中とても過ごしやすいです。この間の滞在をお奨めします。またアピア市から少しはなれた山側に行くと高度も高く、ここは年中快適です。サモアの高級住宅地があります。

住む所とメードさん アピア市には、2-3軒の整備の整ったホテルがありますが、あとは民宿風のホテルやゲストハウスがある程度です。その時々を経済状況に応じて、ステイ先を選べばよいわけです。また2-3ヶ月に及ぶ長い滞在ならばアパートを探せばよいでしょう。ここに住む海外協力隊やJICAに勤めるボランティアの方々はおのおののアパートや住居をあてがわれます。彼らはサモア政府からの薦めもあり比較的簡単に住居をみついているようです。しかも金額も気にする必要がありません、しかし、一般のかたのLSでは信用ある知人や不動産屋からの照会が必要です。サモアではプライベートな生活をしようとおもうのならそ

れなりのしっかりしたアパートを探す必要があるでしょう。知り合ったサモア人はフレンドリーを通り越してドカドカと人の気持ちにはいつてきますので。――

もちろんメードさんを頼むことも場合により可能でしょう。しかもお値打ちコストと思います。サモア人の収入は低く、日本の5分の1程度（私の感じでは平均的サモアンファミリーは月に1-5万円程度で）で生活しています。収入はほとんど海外からの仕送りか、たくさんいるファミリーの内のだれかが仕事をして、それでまかっています。どこでも同じですが、メードさんがらみのトラブルも当然発生します。メードさんをつかうのもよしあしです。

こうして見ると 月幾らぐらいで 生活が出来るかが最大関心事ですが、私のファミリーの例（妻、子供2人、弟夫婦―奥さんがメードさん兼任）で月に7万円ぐらいでしょうか。私のファミリーの場合、家はあるので家賃は必要ないですが、嫁さんは電気代やクッキングのためのガス代、電話代が結構高いとこぼしています。また、常時夏でするので着るものには大してかかりませんが、食費が最もかかるようです。エンゲル係数が高いという事でしょうか。サモアにある食品であれば安いですが、島国なので我々日本人が食べたいものは輸入品となります。日本と同じ生活は不可能でしょう。輸入食品を食べて限りなく日本に近い生活を希望するなら生活費は高くなると思って間違いありません。仮にアパートや安ゲストハウスを見つけてロングステイする日本人の場合、なにからなにまでひっくるめて5-10万円とみましたが・・・レベルによりピンからキリです。

どんなことをする?? ここでは海に囲まれた島なので海のライフが楽しいです。首都のアピア市をステイの基地とします。そしてアピア市と反対側にある、目にもまぶしい白い砂浜のアレイパタやパラダイスビーチでゲストハウスに

ることもできます。

こんな何も無い小島ですから、むしろタロイモやココナッツのプランテーションの見学をしたり、ブッシュに分け入ったり、海水浴・魚釣りをしたりなどの、自然に触れ合うことや、彼らの生活を一緒にやりながらのフレンドリーな民と接触することが、この地 LS の最大の特徴と考えます。サモア人は（もちろんトンガ人、フィジー人も同様）我々に付き合ってくれます。東南アジア人や白人でもないポリネシア人独特の陽気さフレンドリさは際立ってます。騒々しい日本の生活を離れて、頭を無にして自然の中に入る、というのがここでの本来のような気がします。村の中で、家の前を通ると手招きされて“寄っていきなさい”と手まねきされます。また40-50年前の日本の生活があったりしてハッとさせられます。

気をつける事 サモアには危険情報が無く安心です。ただ彼らには酋長制度がありますので村のきまりにしたがって非常識的なことはしないという、配慮は必要です。たとえば、村では夜遅くまでワイワイさわがない、お祈りの時間に道を歩かない（彼らは敬虔なクリスチャン）など日本人の常識では考えられない事も村の規則があったりします。諫められ、村の長から“ブタ3頭を村に贈るように”てなことになるかねません。

毒蛇は南太平洋で見たことは有りません。ただヤモリが必ずいます。彼らの排泄物はネズミぐらいのフンほどあり天井から落ちてきます。また、時々大きめのゴキブリもひっきりなしに見ます。東南アジアでも同じですが特に雨季のシーズンに多い蚊、此れには、食生活で体が酸性に傾いている我々日本人には悩みです。蚊が媒介するマラリアはありません。デング熱がありますので日ごろから免疫力を高めておく事が肝心です。そして、アリンコが家のなかまで入ってくるので、食べ物をいかに守るかなど考えられない事が、日常の関心ごとになります。

“こんな虫に付きまといられる生活はイヤ！”ということもありますが、こんな事が南太平洋を好きか嫌いかになる分かれ目かもしれません。

ゴルフ / テニス / 魚釣り サモアでのゴルフは一見の価値ありです。今回の旅行でもサモアとフィジーでトータル4回（いずれもハーフ）もしてきました。タクシーを使ってゴルフ場を往復したり、バックやクラブを借りたり、ビジターフィー・キャデーフィーをともに払い、トータル¥3000もあればやれるでしょう。ただキャデーが現地の子供達で結構講釈をたれたりうるさい輩もいます。サモアにいた頃はヘタですが月2のペースで私は時々キャデーなし、バッグなしで4-5本のクラブを手を持ってまわりました。サモアでは眼下に海を臨みながら、フィジーではナンデーエアポートが近かったので離着陸する飛行機を眺めながら、けっこう楽しいです。——ゴルフ場の詳しいことは知りませんが、此方は芝が少し荒いような気がします。私は日本ではあまりやった事もないし他の国と比較することは出来ません。

その他、テニスはホテルや教会のテニスコートにて可能です。私は日本人チームのヘボな一員としてサモアのトーナメントに参加したこともあります。少しやった事があればここでは名プレイヤーとして引っ張り出されます。昼は暑いので夕方のスポーツが良いでしょう。なお、ここではラグビーがナショナルスポーツで、それも桁外れに強いです。なにせマッチョなサモア人ですから。

また魚釣りは海岸パタで投げ釣りします、珊瑚礁のため良く根掛かりしました。場合により大きな魚がかかります。以前、神戸のお医者さんがデーブシー（深海）で魚釣りしたいということで船の手配した事があります。船酔いが怖くて私は行きませんでした。彼は半日がかりで2匹の大物を釣ってきました。何時かは私もデーブシーにチャレンジしたいと思っています。

以上のような遊ぶ事にも限度があります。こ

んなノンビリした所で、楽しいサモア人とともに日々を暮らしていればストレスもなく、ボケが始まるのは必死です。短い旅ならいざ知らずロングステイなら、退屈してしまうでしょう。何かをしなければという事が必須条件でしょう。

では何をするか??

以前の私は写真屋をしていたので、日々緊張感があり、やりがいもありました。ビジネスをしてお金を儲けようとするのもひとつの手です。が、ここは未開発のちいさな島国です。会の皆さんにとってはボランティアなどして、サモアの発展に尽くし、楽しく住まわしてもらっているというスタンスで日々をすごすという事が、飽きずに長続きするコツだと思います。

たとえば、パソコンやソロバンや日本語を教えたり、養鶏や野菜栽培など農業の手助けしたり、新しい品種の農作物を作ったり、手工芸や裁縫を教えたり、サモアのお土産ものを開発したり作ったり、空手を教えたり、味噌造りをしたり。私もなんでも並べましたが、考えようによっては、この地でやる・する事は無限に有るような気がします。言葉が出来ないということも有りましょう。しかし、ジェスチャーでも片言の英語でも現地語でも良いです。結果はさることながら、とにかくやってみる事が大切です。案ずるよりう産むが安し、と考えますが。

さて今後の私ですが、いづれ南太平洋に帰る、いわゆる向こうで生活する計画をしています。自分なりにプランもあります。現在、写真屋はたたんでおり、今後のサモアでの経済自活生活が難しいものですので（サモアは世界の最貧国ですので仕事もありません。自分で切り開くしかありません。タイやフィリピンなどで頑張っている先輩諸氏が私にとって良い手本となるでしょう。）なかなか、あちらに戻る決心が付きません。もうすでに親父も亡くなり、親への勤めも終わったし、年齢も56歳になったし、子供も育ってきているので、そろそろかなと思っています。しかし先立つもの(?)も

あります。私の場合、もらえる年金は雀の涙ほどですし、子供だけが頼りです。といっても子供には期待はしていませんが――。兎に角今後、頑張るしかありません。

また私もやはり皆様も同じように、寒い日本の気候は苦手です。当面、気候の良い半年は日本で働き、寒い時の日本からエスケープし南太平洋でゆっくりするという生活をし、機をみて永住するというプロセスを今でも夢見ています。実際に永住権も取得しています。また、働けるうちは日本で仕事をすれば、経済面でも助かるので今暫くは此方です。

こんなときに南の会に入会する事にあいなりました。会の皆様といろいろコンタクトしていくうちに 将来の方向も見えてくるのではと期待しています。

会の皆様におかれましては 南太平洋の島々に興味ある方は是非お友達になりましょう。

私も、将来皆さんと一緒にいったり来たり、あちらで皆さんのロングステイを手助けしたり出来るようになりたいです。このように皆さんとともに南国の島の生活を共有したりすることを切に願っています。このあたりで南太平洋サモアのステイ状況の報告を終わります。またなんらかの機会にお会いしましょう。

ファフエタイ、ありがとうございました。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/pacific.htm>
1

外務省ホームページが参考になります。

なお、3-4年前に西サモアからサモアに名称がかわりました。

サモアの食生活やレストラン事情については又の機会に報告します。

ゴールドコースト日本語教師と L.S.体験—続報

埼玉県在住 会員 No.433 乾谷春美

私は昨年6月から1年間の予定で、ゴールドコーストで日本語教師としての経験を積む研修に参加し、新年号で前半の一端を報告いたしました。今回はその続報です。実は1月初め一時帰国し、再度渡豪、約3か月余りアパートでの一人暮らしも体験し、5月初めに帰国しました。都合約10ヵ月の滞在となりました。

多くの会員方のように入念な準備をした訳でもなく、「始めに研修ありき」といった形でのゴールドコーストで、なんでも南半球にあって最寄りの空港はブリスベン、海岸がきれいなところで、コアラや羊やオージービーフが有名、こんな予備知識だけで飛びこんだのでした。

研修参加中はホームステイです。現地の生活がわかり、英語のシャワーを浴び、費用も安いといふことづくめようですが、実際にはそんなバラ色の日々ばかりではなく、些細な気兼ねが積み重なってストレスになったり、話題を探すのに苦労したりと、手放しでお薦めできるものでもありません。いろいろな経験をと思い2回目はアパートを借りました。管理人は、気さくなご夫婦で、ご主人の十八番の日本語「どういたしまして」が、いまだに耳に残っています。

また我が家の2人の子供たちは既に社会人で、家族そろっての旅行もしばらく遠のいていましたが、正月休みを利用して全員がゴールドコーストで集い、お正月を迎えたことも幸せな思い出となりました。

ゴールドコーストは、1年を通じて気候が温暖なため、現地の人たちがリタイア後に住みたいと思う人気の地、日本人も同じ思いの人が多くははずです。そんなゆったりと元気に人生を楽しんでいる老境に入った人たちと、青春真っ直中のワーキングホリデービザの若者、そして多くの国内外の観光客でほぼ1年中賑わっているところです。



サーファーズの町

(1) 私の「日本語教師」研修のまとめ

①成人クラスでの日本語教師体験

私たちが英語を外国人から学ぶことはあたりまえですから、オーストラリア人に日本語を教えることはそんなに大変なことではありません。しかし、それを英語で教えるとなると話は別、生徒は全員英語がペラペラなんですから。

10年間、英語を学びましたが、それ以後はどっぷりと日本語の中にいましたので、この言い方で大丈夫かな、この発音でわかるかなと、不安だらけでした。特に生徒さんの質問の聞き取りには悩みました。でも、おばさん一人、捨て身の覚悟ですから、聞き返す度胸もつき、回を重ねるにつれ「なんとか英語で授業している！」と、自信を持っている自分に驚くやらあきれられるやらといったふうでした。授業の準備は英語と比較しながらですから、結果的に英語の勉強にもなりました。

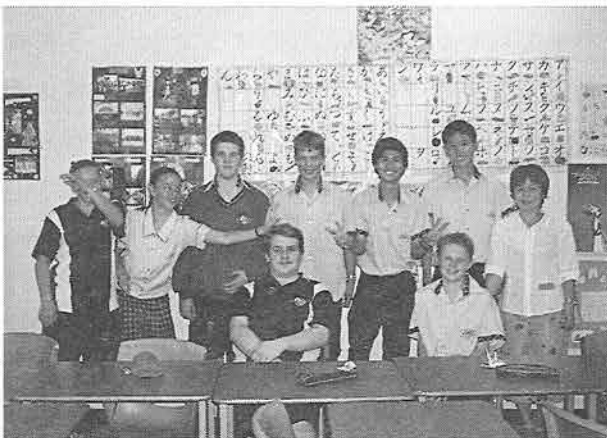


日本語の授業 先生は私

②ハイスクールでの日本語アシスタント教師

ハイスクールの日本語の授業は、もちろん英語で説明を受け文法を理解し練習するというスタイルで進んでいきます。日本の中学や高校の英語教育と同じです。日本ではアシスタント英語教師の力を借りて、発音、会話、文化の紹介等、使える英語の習得を目指します。日本と今回の私の場合との大きな違いは制度化しているか否かです。ボランティアの私は、学校の教育課程に組み込まれていないので積極的な活動がなかなかできません。学校にもよりますが、日本語教育に熱心なところはそれでもなんとか出番もあります。私が行ったロビーナ高校はいつも私のほうから申し出る必要があり、なかなかこれが難しいことなのです。こちらの英語力が貧しいこともあります。あちらの先生の日本語力も問題があり（中には流暢な先生もいますが）意思の疎通が大変でした。

でも、生徒は皆かわいくて、初めて訪れた南半球の英語圏の若者が、熱心に日本語を勉強している姿を目の当たりにして、感激して心が震えました。日本人として誇りにも思いました。そして日本語教師としてもっと腕を磨かなければと決意を新たにしました。



ロビーナ高校の生徒と

③ちょっと長すぎた研修

私の研修は、当初1年という一介の主婦が参加するには少々長めの予定でしたが、研修内容がそんなに深くはないことが徐々にわかってきて、半年が過ぎたあたり（12月頃）でもう十分という気持ちになりました。ゴールドコー

ストでは年度が1月から12月なので、区切りもよかったです。幸いなことにビザがまだ有効です。そこで1月の一時帰国を境に、残りの日々はロングステイ体験にしようと気持ちを切り替えました。



12月最後の授業の後、成人クラスの

生徒さんと一足早いクリスマスパーティ

(2) 再びゴールドコーストへ

①アパート探し

それまでのホームステイを卒業するため、まずアパートを探しました。ステイ先の家族に現地の不動産屋を紹介してもらったり、日本人経営の不動産屋を尋ねたりしましたが、ひょんなことから、「立道子さん」の著書に導かれるようにゴールドコーストに住み始めた山本喜久治さんと知り合い、喜久治さんが住込にしている「TIVOLI」という長期滞在用のアパートの一室を借りることができました。

喜久治さんは1年半前から海外1人暮らしを実践している、なんと年齢80にもなるかというゴルフをこよなく愛する元気な方です。



住んでいたアパート TIVOLI

一般にアパートは不動産屋を通すと最低6ヶ月は住まなくてはならないようですが、直接契約のため3ヶ月でも可能、しかも余計な仲介料は不要です。もっとも4週分のボンドは必要でした。週\$230で電気代は別途かかります。ただ、物件の契約の確認や電気の契約などは当然ですが全て英語でなので、かなり厳しかったことは確かです。

サーファーズの中心に近く7階建ての6階の一室で、ネラング川に面したとても眺めのいいところです。喜久治さんもそうだったようですが、一目で気に入りました。



私の部屋からの眺め

②英語塾 (EIP=English In Paradise) に通う

せっかく英語圏にいるのだから英語を勉強しようと思い、ある英語塾に入りました。生徒は韓国と日本人の若者がほとんどです。小規模で、開校して日も浅く、当時はカリキュラムもまだきちんと整っていなかったのであえて塾と呼びます。では、なぜそんなところに？ 答はいたってシンプル、ずばりアパートから歩いていけることと、1時間\$10と安かったことです。ホームステイ中はとりあえず「英語」の中にいたのに、アパートで一人住まいとなると1日中英語とつきあわなくても暮らせる、これはもったいないことです。そこで、いまさら文法を勉強するのはおもしろくないけれど、nativeの英語を直に聞くことができれば十分と考えたのです。

3人から5人のグループレッスンで、必ず一

人一人に発話を促します。話題もいろいろでオーストラリア全般を知るいい機会になりました。

加えて、当時イラク戦争に突入や否やといったことがニュースの中核を占めるようになり、当然ですが授業の格好の題材になります。我が日本は安保の保護の下、アメリカに従っていればなんとか丸く治まるわけで、個人の意見を披露するまでもありません。でも意見を求められます。たかだか英会話レッスンでのことですが、特に外国では何だか日本を代表しなければならないこともあります。本腰をいれてテレビのニュースと付き合い、日本の様子も知らなければと朝5時半からの日本語のニュースもできるだけ見るようにしました。おかげで早寝早起きの健全な生活になりました。

③日本語を教える

そんな日々のある日、先生の一人から日本語を習いたいという相談がありました。2つ返事で引き受け、日本語を教え英語を学ぶ毎日となりました。もちろん研修の経験を生かすことはできましたが、自分流の教え方を模索しながらの授業となりました。私の力量も及ばないわけですが、自国にいながら外国の言葉を学ぶことの大変さを感じました。英語での説明なのでその場ではわかった気になるようですが、実際の発話練習がどうしても十分ではないのです。それに授業の中でしか日本語を聞くことがないんです。これが永遠の課題ですね！



EIPで。央が先生でもあり生徒のRobさん

④木村さんご夫妻に再び会う

3月下旬、木村さんご夫妻がペナンからゴールドコーストにいらっしゃって、再びすばらしいお家を訪ねることができました。ご夫婦はもっと本格的に英語を学びたいということで、英語学校のリサーチを熱心しておられました。この情報等は会報の夏号に掲載されていました。また、木村家のお隣さん所有の船で釣りも楽しまれたとか、ゴルフに釣りに英語にと、本当に変化に富んだ充実した生活ですね。パンチパーマの似合うおしゃれなご主人と、気さくで飾らない世話好きのまゆみさん、なんともいい雰囲気のお二人です。

ちょうど訪ねてくれていた私の友人も含めて皆で食事にも出かけました。アルコール好きの木村さんご夫妻はグラスを重ねるにつけ更に雄弁になり、楽しく心地よい中でペナンやチェンマイの話をお聞かせいただき、ぜひ行ってみたいと強く思いました。

⑤ゴルフや日帰り旅行に行く

「英語と日本語の生活」だけではもったいない、せっかく3ヶ月一人暮らしの機会だからと、時々にはゴルフも楽しみました。日本の練習場での費用と同じくらいでハーフがまわれるので、週1回くらいはと思い、喜久治さんが会員になっているゴルフ場でプレーしました。アパートから車で20分ほどの距離です。一般的には手引きカートでまわるので、夏でもありハーフが最も体力に合っているということで3時頃からスタートしました。

また、たまには1日ツアーにも参加しました。日本語の通じるツアーは高いので一般の現地ツアーに申し込みました。オーストラリアの最東端にあるビーチのきれいなバイロンベイやラミントン国立公園などです。こちらのツアーはドライバー自らがお客をピックアップし、ガイドをし、もしモーニングティーがついていればその準備をし、、、と一人3役も5役もこなします。精力的でいかにも「今日は私がホストです」と自信にあふれた感じです。とってそんなに低

姿勢ではなく自分の仕事をきちんとかなすというふうで、帰ると「いつもと違ういい時間が過ごせてよかった」と思ったものでした。



バイロンベイ オーストラリア最東端



私の左が運転手さん 右は喜久治さん

⑥バスに乗る

私は基本的に車を持たなかったので、バスをフルに活用しました。北は日本人も多く住んでいるゴルフ場隣接のサンクチュアリーコーブからホープアイランド、南はゴールドコースト唯一の鉄道の終着駅であるロビーナ、更にはゴールドコースト空港のあるクーランガッタまで行きました。バス路線はくまなく網羅していますが、問題は時間が正確ではないこと、乗り継ぎの連絡はほとんどないこと、そして広範囲の住宅街をカバーするためかなり迂回しながら走るため、余計な時間がかかることなどです。でも周りの景色を見ながら目的地に行けるので、それなりに捨てがたいものです。それに大きいショッピングセンターへは頻繁に走っているのでもそんなに不便は感じません。

⑦ピカールの気候と安くておいしい食料品

12月1月2月の真夏を除くと気候は一貫して温暖、空は真っ青、空気はきれい、Tシャツと短パンが正装にもなる、食べるものは安い、人種偏見もない、のんびりしているといいところだらけです。暮らしてみるとまことに楽園とはこんなところなのかと思うくらいですが、「のんびり」を裏返すとルーズということで、時間に正確な日本人にはちょっとリズムが合わない場合もあります。

恐れていた真夏の太陽はやはり想像以上に強いですが、でも朝夕は涼しいのです。寝苦しい夜はほとんどないといってもいいでしょう！天井についている扇風機（シーリングファン）が結構快適です。クーラーのついていない家もありますが、使う回数は多くはないでしょう。本当に暑い日中はクーラーのきいたショッピングセンターで涼むのが賢い方法です。買い物もできるし、お茶も飲めるし食事を楽しめます。フードコートというところがあってどの店で買ったものでも自由に食べることができます。

そして、とにかく食料品が安いです。特に農産物と畜産物です。まず米ですが、まあまあおいしいものが日本の1/3~1/5くらいの値段です。パンも日本とは小麦粉が違うのでしょうか、噛むと味わいがありおいしいです。ベーカリーのパンもおいしいですが、スーパーのパンも大丈夫です。

私は主婦業休業も兼ねていましたから、すぐに食べられるシリアルや果物やジュースをよく買いましたが、本当に安くておいしかったです。しょうゆを落として食べるアボガドのファンになりました。ならば日本でもと思います、そんなにおいしいとは感じないのです。たぶんあのカラッとした暖かい気候だからこそおいしいのでしょう。食べ物と風土はやはり切り離せないものです。

また、スーパーではスペシャルが毎日あり、10ドルでも安い物を買う習慣が身につけてしまいました。ほとんどバラで買うことができるのも大きい魅力です。一方、週末だけあいている

カララにあるフリーマーケットでは、まとめ売りですが比較にならないくらい安いです。家族が多ければ絶対お得です。



カララマーケットで買う。

全部で\$14.50

また、私は日本人ですから肉類では牛肉が一番安いと感じました。ステーキ肉をよく買いましたが日本のよりは多少固めです。でもおいしいです。魚はスーパーでも買えますが、専門の店もあり新鮮なものが手に入ります。マグロの刺身や生がきをつまみにオーストラリアビールやワインを飲むのは最高です。専門店の品揃えは豊富で、えび、ホタテ、かに、脂の乗った白身の魚等等、なかなかどうして日本の魚屋に優るとも劣らない感じでした。



魚市場で

魚のフライとフライドポテトを一緒に盛り上げたフィッシュ&チップス、伝統的なパイやトルコ発祥のケバブなども手軽な持ち帰り食品として重宝しました。

(3) 一人暮らし家計簿

表は今年の2月から3月にかけての経費を1ヶ月あたりに換算したものです。

その間日本から友人が2人訪ねてくれました。その際、行きたいと思っていたところへのツアーを組んだりおみやげを兼ねて買い物に精を出したりもしましたが、それらも含めて計上しました。

(1 \$=70円換算)

| 家賃 | 電気 | 食費 | 外食 | 雑貨 |
|-------|------|-----------|------|------|
| 70000 | 2400 | 1700 0 | 8000 | 4500 |

| 交通費 | 被服 | 娯楽 | その他 | 合計 |
|------|------|------|-------|--------|
| 2500 | 4000 | 8000 | 17000 | 133400 |

※娯楽 (ゴルフハーフ¥1500 ・ ツアー ・ 入場料などを含む)

※その他 (英会話レッスン代 ・ 土産を含む)

※米: 1 kg ¥120 牛乳: 1ℓ ¥110

食パン: 700 g ¥140

ステーキ肉 (ランプ) : 100 g ¥100~180

(4) 日本語への思いと長井さんご夫妻

「外国語はやはり当の外国語で学んでこそ身につく」ことを改めてこの研修中に悟りました。教師として媒介語を最小限にとどめる工夫が大事なことです。現在 (帰国後)、研修を生かすべく自信を持って日本語を日本語で教えています。

会員No.429の長井さんご夫妻と初めてお会いしたのはゴールドコーストでした。「南の会」を通じて私のことを知り、ブリスベンから訪ねてくださいました。近い将来ロングステイに入る予定と伺っていましたが、この7月に出発されました。現地で日本語も教えてみたいというご希望です。主に私が長井さんの質問に答えるという形でメールのやりとりをしていました。始めは手探りの日々だと思いますが、どうか勇気をもって日本語を教えてください。

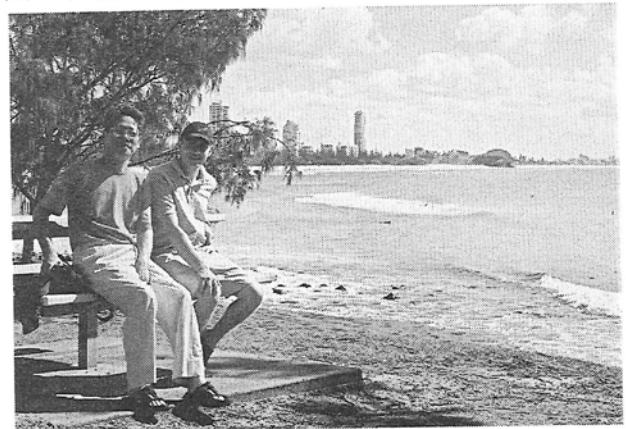
(5) こんどは夫婦2人でロングステイ!

夫婦がそろって健康であれば共に海外ロングステイを実践するのが「南の会」でも一般的なことです。私の場合は、たまたま夫がまだ定年前ということもあって、一人でロングステイを体験してしまいました。2人一緒の方が、何をするにも合理的で楽しく暮らせます。外から日本を客観的にみることはとても興味深いことですし、自国の良さも見えてきます。それに何といても海外での暮らしは刺激があります。

ただ、「なんでも一人で」というのも結果論ですが、とてもよかったなと思っています。一人暮らしの経験が全くない上に言葉が自由でないという二重苦ながらも、とにかく生活できたということが、「世の中何とでもなる」という自信になっています。今では、ゴールドコーストの地図はもちろん、ある程度のバス路線やあの店の肉がおいしいとか、パイならこの店、スーパーの商品の配置などが自然に頭に浮かびます。

でも、やはり今度は2人で行きたいと思います。向こうで見かける日本の方は若者を除けばたいていご夫婦です。いいなあといつも思っていましたから。

増えた荷物の整理とアパートの掃除、そしてゴルフを楽しむため5月の連休を利用して夫が三度ゴールドコーストへ・・・レンタカーであちこちまわりながらしっかりと思い出を胸に刻み、機中の人となりました。



左は夫 私の日本語の生徒 Benさんと

レイテ交友記

高知県在住 会員No.241 下元彬人

マニラ通過

梅雨時期の6月は、海外で過そうという、一見、贅沢な想いがここ3年ほど、実現している。これは、ぼくにとっては、実は贅沢ではない。長年、米系の航空会社に勤め、58才と10ヶ月で、良い別れ方をしたので、いまでも、社員割引を年に何回かは利用できる。タイやマレーシアやフィリピンでは、宿が、1,000円から1,500円程度、食事は、3食1,000円程度で、ことが足りる。5万円派の基準は、僅かにクリアできないが、経済的には、高知の田舎にいるのと大差はないし、気分は変わってリッチになる。今年は、6月に平尾蛭博士の四国蛭ツアーが計画されていた。会いたい仲間がこちらに来ることに、後ろ髪を引かれながらも、年間計画に従って南の国へ旅立った。行き先は、セブ経由レイテ。

成田発 19:10 マニラ着 22:25。

マニラには泊まる気がないので、cebu pacificの早朝便、01:30 発に乗り継ぐ。通常、cebu pacificは、国内線空港からの出発で、乗り継ぎには不便だ。しかし、この便は、深夜近くに、国際線でマニラに到着して、そのままセブへ向かう人達を対象にしているのので、国際線空港(NIJA)からの出発が許されている。至極便利である。sars対策の検温のため、結構時間がかかり、待ち時間はほとんど無かった。検疫、入管、税関を終えて、とりあえず1万円を両替し、到着ロビーへでると右手端に、cebu pacificの移動カウンターができています。ここで、発券とチェックインをしてくれる。外界へ、一歩もでないですむ。出発時間近くになると、すでに、税関や入管の職員も到着客もいなくなった施設を逆流して、国際線ゲートに駐機している飛行機にのる。(因みに、セブから帰ってくるときも、この逆を経験した。セブ発 04:00のcebu pacificに乗ると、まだ無人の国際線ゲートへ到着する。職員のいない入管、税関を誘導されて、国際線の税関内で荷物を受け取る。職員に

乗り継ぎ便をつたえると、上階の出発ロビーまで、誘導してくれる。そこは、閑散としていた到着階とは天地の違いで、すでに出発業務の大混乱が始まっていた。)

参考のために、cebu pacificのサイトを下に記します。予約は、ここからでき、発券はチェックインの時にできるので、前もって買っておく必要も無く、料金も税込みで、2,149ペソで割安です。

<http://philippinetravel.jgsummit.com/cebupacificair/>

セブからレイテへ

さて、紙面の都合上、セブでの話は省いて、レイテへ。レイテ島は、セブ島の北東の方向に位置していて、南北に細長く、首都は、北東沿岸部にあるタクロバン。ぼくが今回行ったのは、島の西海岸沿いのオルモック(Ormoc)からバイバイ(Baybay)までのみ。



オルモック港

セブから、レイテ島に行くには、Pier 4(第四埠頭)からスーパー・キャット艇でオルモックへ渡り、ここから、バスやバンで、各地へ分散してゆくの一般的なようだ。ぼくも、行きは、この経路をとった。しかし、最近、オーシャン・ジェットがセブーバイバイ間を、カモテス島経由で、一日2便、航行し始めた。タクロバンや南部のマアシンに向かうにはこちらのほうが、便利。ぼくも、帰路は、バイバイから、

こちらのルートを利用した。しかもセブでの発着が Pier 1 (第一埠頭) なので、ずっと街部にちかく、大きな利点です。

セブから、レイテへ行こうと思い立った日、ちょっと、寝坊をして、慌しかった。切符を買って、船にむけて、走り出したのが出発10分前。乗船前に、2つのことを、やりたかった。ペソがなくなっていたので、換金。それに、いつものY氏への手土産のジン、(ビーフ・イーター)を買うこと。手土産をカードで買っているうちに、時間切れ。換金は出来ずに飛び乗った。セブでは一万円が4,500ペソだったのに、着いた先のオルモックでは、4,100ペソだった。

ビスカ

レイテは、太平洋戦争末期の悲惨な戦場であったことで、我々日本人には、あまり思い出したくない地なのだろう。そういうこともあってか、岐阜出身のY氏によると、オルモック・バイバイ間に、日本人は、5人しか住んでいないという。しかし、この戦場で、日比が対決したのではないから、対日感情が他所に比べて悪いわけではない。

オルモックは、賑やかな商業地。バイバイ行きのローカルバスの右窓側に座る。右手は砂浜、左手は比較的険しい山並、その中間にはココナツ畑と水田、という風景が何処までも続く。時々、山側から海側へ注ぐ川を横切る。水の豊かさ、雨量の多さを思わせる。この春の異状台風6号も、確か、レイテ沖で発生しただけだ。



ビスカ正門

一時間ほど走ると、VISCA (今では、名前が Leyte State College と変更されているが、通称は、ビスカ) という大学の広大なキャンパスのメイン・ゲイトを横切る。ここには、ホステルがある。エアコン付きで450ペソ。チェックインしておいて、ジプニーでY氏宅へ向かう。

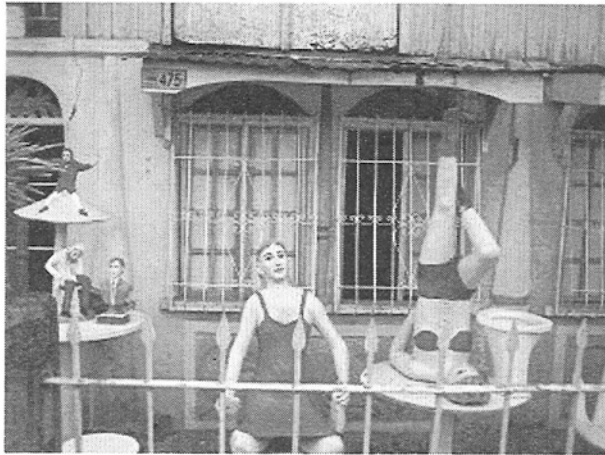
そもそも、何故この地に知り合いができたかということ、3年前、ヤフーのチャットでこの大学の女の先生と出会い、話しが弾んだ。いつか会おうということになった。セブに行ったときに、ついでに、と言う感じで訪れて以来、彼女のお陰で、芋づる式に知り合いがふえ、彼女の同僚のご主人であるY氏にたどり着いた。

彼は、若い頃から、バック・パッカーのはしりだったようで、クラブ(7年間)やレストラン(7年間)を経営しながら、資金と時間を作っては、広くアジアを歩いていた。48歳のとき、遊び仲間に誘われて、マニラ、そして、バイバイへ来た。ここで、地方ラジオ局のアナウンサーで、2人の男の子の子持ちであった彼女と知り合い、やがて、結婚してこの地に住み着くことを決心した。彼は、日本でも、女性にもてたようで、結婚など考えたことなかったというが、それでは、ジゴロ風な男かということ、そうではなく、むしろ、硬派であり、勉強家であり、諸事に好奇心旺盛な方である。祖父が、すでに、アジアとの貿易で暮らしをたてていた、と言うから、環境も血も、こういう境遇に違和感がなかったのだろう。

新しい家

話しを、ジプニーで彼の家に向かうところまで戻す。彼の家が、Santa Cruz Elementary School の側であると言う憶え方をしていたのでジプニーの運転手にそう告げて、降ろしてもらった。しかし、一人で来たことは2度しかなく、しかも夕暮れ時だったので、覚束なく、サリサリ・ストアの横でバーベキューを焼いている青年に、ミスターYの家はどこかと尋ねた。

ちょっと行った左手の、たくさんの像(statues)が立っているところだと言う。前回、来たときはそんな家ではなかったの、訝しくおもいなながらも、とにかくその面白い家を見つけた。



モダンアート

赤い下着の女性が空を見上げていたり、裸身に近い女性が逆立ちのようなポーズで運動をしていたり、セーラー服の水兵が敬礼をしていたり、小便小僧がいたり、統べての像が、実寸の半分から四分の一ほどの大きさでできた石造モダンアートなのである。そのモダンさに感心して見ていると、なかで老婦人が砂地を掃いているのに気が付いた。ミスターYのお家はどこか、と尋ねている最中に、Y氏がその家の中から出てきた。

「引っ越したのに、よく分かったね、たいしたもんだ！」と誉めてくれた。

早速、家のまわりの散策がはじまる。それにしても、このモダンなコンクリート・アートは、何なのかと尋ねると、彼のあたらしい家の家主で、86才のアーティストの作品だという。この作品群は、ひとつ当たり大体、4,000から5,000ペソで売りにだしているが、無論、めったに売れない。売れなくても、値段は変えないのだと言う。

Y氏の家は、前の家も、砂浜にあったが、今度の家も同様。形だけ、一応、鉄パイプで、砂浜との境界を区切っているだけの造作である。道路から、海に向かって、長方形の敷地に、3つの小さな建物が、ちょうどそれぞれの家の庭に相当する間隔を保って、散在する。道路に近

い家に家主が住み、中間の家にY氏が住み、海辺に近いのには、最近まで、ミンダナオで印刷屋をしていた一家が避難してきて住んでいる。

散策を終えて、ジンで、1年ぶりの乾杯を交わす。

Y氏の生活

彼のユニットは、水周りがコンクリート、あとは、木、竹、ニッパでできた1LDKであるが、むろん、こんな言葉が似合う代物ではない。しかし、彼は、こういう家が好きである。ぼくも、好きである。家賃が、1,200ペソ。勿論、敷金、保証金のたぐいはなし。電気代が約500ペソ、水が1,000ペソ、ガスが150ペソ。テレビはあるが、ケーブルではない。冷蔵庫はあるが、クーラーはない。代わりに、蚊帳がある。電話は、ケイタイですませている。パソコンもない。(しかし、最近、バイバイのインターネット屋さんで、すこしパソコンが分かるようになって、興味がわき、購入する気になっている。)一ヶ月、8,000ペソから10,000ペソで、暮らしている。

砂地で、鶏を2羽飼っている。殻がダイダイ色をした立派な卵が20個ほど台所の隅に置かれている。殻に、収穫した日付がマジックペンで記録されている。供給過多で、近所まわりに、お裾分けをするという。ピーマンとオクラと名前のわからないナツパが植えられている。空の小さなドラム缶が5つ積み重ねられている。何だか分かるか、と質問されたので、これで燻製をつくるのかな、といったら、正解だった。

彼は、コックであり、百姓であり、大工であり、小企業家である。日本から入ってくるお金はゼロ。バブルのはじける前に、7年間続けたレストランの権利を売りわたし、その蓄えをいまでも、円で持っている。しかし、蓄えを取り崩して生活しているのではない。こちらで、収入を得ている。

主な収入源は、3つ。

A) バイバイのレストランに投資をしている。利益の30パーセントが入ってくる。

B) セブ島のどこかで、豚の市があり、仲間が生きた豚を買って、レイテまで運んできて、そのまま売る。つまり、ブローカーである。

C) 水田を地主から借りる。これを、小作人に任せる。収穫時にだけ立会い、何パーセントかを現物で受け取り、米屋に売る。

彼のやっていることは、とくに、アイデアが卓越している訳ではない。しかし、われわれが、真似してできるかと言うと、できないと思う。彼の技量だからできるのだと思う。



バイバイ港待合所

彼は、現在、55才。何れ入ってくる僅かな国民年金を、楽しみにしている。ラジオ局の職員である奥さんも、公務員なので、将来、年金を期待できる。先は明るい。2人の男の子は、すでに、成人しており、セブに住んでいる。ひとりは、船員の資格をもっている。Y氏は、この息子は、職をかえるべきだと思っている。船員は供給過多状態だからである。しかし、息子の方は、外国にあこがれていて、まだ、方向転換をする気はない。下の子は、測量士に、間もなくなくなる。Y氏は、この職業は、将来的に悪くないと考えている。彼は、日本には、ほとんど帰らない。(奥さんも、日本を知らない。)母親、兄弟にも、不幸があっても、帰れないかもしれない、と言ってある。

彼は、家も、土地も買わない。勿論、車も買わない。その方が賢明だと考えている。借家にも、長年住み着かないで、家を変える。びくびくしているわけではない。ガッツは、あるのだが、頭を低くして生きている。一方、比較的

くに住んでいるもう一人の日本人のA氏は、邸宅を2軒、車を5台持っている。対照的である。しかし、Y氏はA氏を、悪くは言わない。ひがんでもいないし、羨ましがってもいない。そんなY氏が好きである。

当初は、Y氏に会った後、タクロバン、さらに、マッカーサー・ポイント、リモン峠などを、訪れてみたいと思っていた。しかし、Y氏が、しばらくセブに行っていないから、一緒に、マクタンに住んでいる沖縄出身の友達の家へ、呑みにゆこうよ、と誘ってくれたことで、旅程が、いとも簡単に変わってしまった。来年、彼に会いにゆく時には、旅程の最後に組み込まなければ、と肝に銘じている。

メーリングリスト・ミニ情報 (バリ島) (@_@)

信用出来る現地ガイドをご紹介します

安心、効率、安く、楽しく 現地で過ごすには 現地の生の情報を持っている、知人友人がいる事で大きな違いが出て来ると思います。

信用出来る現地ガイドをご紹介します。

このガイドはバリでの長期滞在の豊富な経験をお持ちの石川ご夫妻(会員番号6)と永年交流のあるアグス青年です。

小生もアグス青年にガイドのお世話になりました。日本語の話せる人柄の良い好青年です。家柄も良く王族の流れを汲んでいるとの事です。

石川パパ、ママの友達、知人であれば

1日ガイド(彼)、車付き 250,000 ルピア (RP)

半日ガイド(彼)、車付き 125,000 ルピア(RP)

ガイドを引き受けてくれます。

業者ですと通常1日ガイド(車付き) 350,000 ルピア

空港の出迎えは 80,000~100,000 ルピアです

Name : AGUS SADMKA (^o^)

携帯電話 ; 081-246-06355

日本からは :: 001-010-62-81-246-0635

E-M dagusde@yahoo.com

もし彼にガイドを頼む事がありましたら、石川パパ、ママの知り合いだと話せば上記の値段でサービスしてくれます。

バリで楽しい滞在を〜

情報提供者: 梶野 幸三 (会員 NO.149)

E-m ; kozo-kajino@fancy.ocn.ne.jp

VISAと旅日程等

バンコクのツーリスト・オフィスでカンボジア往復航空券を購入（往路バンコク→プノンペン。復路シェムリアップ→バンコク）。11,620 バーツ（36,022 円）。10 日間の旅。

VISA はカンボジア入国の際、空港で誰でも簡単に取得することが出来る。代金は 20 \$（2,660 円）。VISA 用の写真（2 枚）を持っていない場合は、写真代が別途必要となる。

カンボジア国内の旅は、プノンペン→シェムリアップ間は飛行機使用。約 50 分。

カンボジアは危ない国？

どのガイドブックを見ても、日本の旅行会社に聞いてもカンボジアは治安が悪く怖い国だという。だから、どうしても行きたいのであれば、団体ツアーを薦められもした。

しかし、タイ、ベトナム、ラオスと回って目と鼻の先まで来ていて、カンボジアへ行かないなんて私には出来ない。今度いつ来られるかも分らないし、アンコールワットを見ないで帰ったら、我が生涯の損失にも思える。

4 か月近い長旅で、心身共に疲れてはいたが、こんなにまで行きたかったのは、アンコールワットに住む魔物が私を呼んでいたに違いない。

タイのチェンマイに住む I 財閥末裔の御曹司だけは皆と意見が違った。「カンボジアの人達は親日的で、素朴で何の危険も無い。

ただし、日本人でござい、とばかりに膨らんだ財布をぶら下げて、夜中に 1 人で街をふらつければ別よ…」とカンボジア行きを勧めてくれた。

私にとって都合の良いこの一言だけを信じて 3 月 23 日、今度の旅の、おまけのような、カンボジア 10 日間の旅に出た。

バンコクから航空機でカンボジアのプノンペン、シェムリアップ、アンコールワットの 3 か所だけの訪問と言うコンパクトだが、心弾む旅となった。

美しい街プノンペン

プノンペンの空港からタクシーで 15 分 7 \$（931 円）で市の中心部へ。つい 5～6 年前まで激しい戦禍に見舞われていた筈だから、街も人の心も荒廃しているに違いない。でも、それは仕方のないことだ。と思っていた。だが、予想に反して、王宮を中心にトンレサップ川沿岸辺りは、良く整備された美しい街並みで目を見張るものがある。プノンペンの人達は、「ここは東洋の真珠だ！」誇らしげに胸を張った。ポルポトの恐怖政治から解放された人々の、本当の笑顔を見た。来て本当によかった。巷で囁かれているような怖い印象は全く受けなかったが、日中の刺すような陽射しだけは少し厳しかった。



ホテルから見たプノンペンの街

難点を言えば、市の中心部といえども未舗装の道路が多く、夕方になると土埃のため、街中、霞がかかったように遠くが淡い茶色に霞んで見えることだ。物価は、フランスパン（調理なし）1 本 432 リエル（15 円）、具沢山の粥 2,340 L（83 円）、調剤の下痢・腹痛薬 3 日分 3 \$（399 円）、帽子 3 \$（399 円）、豪華魚介類料理、飲み物込み 5 人前 50 \$（6,650 円、1 人 1,330 円）、バイクで、所定の場所往復 1 \$（130 円）。食べ物は、魚介類も豊富で、淡泊な味付けは美味しく、全く抵抗がなかった。ベトナムやラオスより少し割高感があったが、通貨換算時のレートも関係しているの、一概に高いとも言えない。ここプノンペンは、意外に知られていないロングステイ地の穴場かも知れない。

この街にはきつと又戻って来るような気がする。

中年男性2人のロングステイヤー

ガイドブックで紹介されているPホテルへ直行してみたら、何故かホテルは閉鎖されていた(よくある事です)。タクシーの中でホテル・ガイドを読み始める私を見て、運転手が「日本人も時々泊まる良いホテルを紹介する」と言う。

“時々”が気に入って行って見ることにした。

セントラルマーケットに歩いて5分程のMORAKAT HOTEL。フロントのマネジャー(香港育ちの女性)の、ゆったりした人柄と、さり気ないサービスに長旅の疲れも癒える思いであった。こんな素敵な女性(美人と言う意味では無い)のいるホテルは他にはないと思い、ここに逗留する事に決めた。ホテル代は8\$~25\$(1,064~3,325)まで。私は10\$(1,330円)の部屋に決めた。10畳ほどのツインルームには、エアコン、ホッとシャワーにバスタブ、TVも付いている。清貧の私にはこれで充分。TVは日本語衛星放送も入っていた。

噂どおり2人の日本人が滞在していた。交通事故の治療のため通算4年間もこのホテルに滞在していると言うAさん(42歳)と、惚れたカンボジア人女性を追いかけて2度目の滞在で、今滞在4か月目のKさん(65歳)に出合った。

Aさんは若くして離婚したため只今独身。2人の子供も成人し、今、ご自分の青春を謳歌しているようであった。気になる生活面の資金は、「養殖のホタテを捕るための設備の特許を持っている(私には、何の事やら、ちんぶん、かんぶん)」ので、42歳の若さで、もうお金のために働く必要は無い。とのことであった。

A氏曰く、社長時代「あまりの忙しさと疲れのため、仕事中に居眠り運転をして、大事故を起こしてしまい、生きていた事自体が軌跡」と言っていた。4回の大手術にもかかわらず、右足のくるぶしから先は、人の足とは思えないほど、見るも無残に変形していて、普通に歩く事もままならない様子は、事故の激しさを物語っている。先々この足を切り落さなければならな

い可能性も十分あり、苦しい毎日なのだといていた。が、この足とは裏腹に、にこやかで、良く気のつく、中々の好男子であった。

私生活ではベトナムから出稼ぎに来ている24歳のTちゃんと共に暮らすなど、日本では考えられないほど、のどかな生活を楽しんでいた。彼は、Tちゃんとの結婚に向けて、貧しい彼女の田舎の家を新築してあげるなど献身的であった。しかし、ホテルに滞在中、一緒に食事に出掛けても、彼女に全く気を遣う様子もなく、日本人の私とばかり喋っていることが気になり、注意したら、「お互い言葉は通じないし、物を食べると言うくらいしか会話が成立しないのよ。いいんだヨ気にしなくて。どうせ何処へも行く所がない女なんだから」と、言葉が分っていたら、只では済まないような事を言う。

一方、K氏の方は大酒飲みの不動産屋で43歳の時、重い脳溢血で倒れ、半身不随となった。以来奥さんの献身的な介護の結果、ようやく仕事にも復帰でき、1人で外を歩けるまでに回復したが、彼が55歳の時、看護疲れのためか、奥さんの方が急逝してしまったとのこと。それから独身を余儀なくされている由。

息子に仕事を譲り、1年前プノンペンに観光で来た時、半身不随の彼を親身になって世話してくれたのが、某ホテルで働く、今の彼女Sさん(42歳の2人の子供を持つ未亡人)で、K氏は、彼女の優しさと忍耐強さに心がとろけてしまったようだ。K氏もまた「Sさんに家を買ってあげるだの、彼女の子供達を大学まで出して上げると」夢中で将来の生活設計を語っていた。先々は、日本とプノンペン半々くらいの生活にして、人生をエンジョイする。そして、お互い子供がいるので、正式な結婚はしない。と先の見通しまで立てているようであった。

ある時、K氏に少し意地悪い質問をしてみた。「失礼ながら、Kさん!半身不随でも男性機能の方は大丈夫なのですか?」。すると彼は、「いやダメだ、でも、それをとやかく言うのは日本や欧米の女どもで、ここの女は、そんなはしたない事は口にしない。第一カンボジアでは40

過ぎの女なんて誰も女とは思わないし、人生終わったも同然で、全然心配ない」と言う返事が返ってきた。はしたない事を口にしてしまった私だが、内心では、「人間の身体に洋の東西があるものか…」とは思ったが、この国の事情を知らないのかな？と、口をつぐんだ。

でも、「バイアグラは中々良く効く」などと言って薬を常用するK氏は、かなり無理をしているようで痛々しい気がした。

お互いの意思を伝達する言葉もなく、文化の違う異国で、20歳以上も年の違う異性との暮らしがうまくいくとは私には思えない。異性に対する考え方の違いをこの時ほど感じたことはない。全くタイプの違う、2人の日本人男性の、女性観を毎日聞いているうち、私も洗脳されてしまったのか、彼らにかなり好意的になってしまった。何故だろう？言葉では酷い事を口にするが、国境を越えた「愛」を感じたからかも知れない。

ただ、前述のフロントマネジャーの意見は違った。「私がこんなことを言うと、嫉妬と思われそうで嫌だけど、日本の男達は、沢山お金を遣わされた挙句、捨てられるに決まっている。特にK氏はクレイジー。カンボジアの女は、それほど柔でも、従順でもない…」と本気で心配してくれていた。だが、彼らには、この忠告も馬耳東風。好きな女性と一緒にいることで生き生きと、我が世の春を楽しんでいるようであった。

結婚式に出る

MORAKAT HOTELに滞在中、A氏が仲人をすると言う結婚式に誘われた。招待者以外の人は、10\$ほど持って行けば、誰が出席しても構わないらしい。カンボジアの結婚式を見たかったので、夕方6時、今日仲人をするAさんと、右半分に障害の残るKさんと、Kさんの恋人のSさんと私の4人は、おめかしして、車で会場へ向かった。

プノンペンを中心部から車で5分ほど走れば、街灯さえも無い真っ暗闇の田んぼ道。心細くなりかけた頃、遠くに灯りが見えて、けたた

ましいステレオの大音響が聞こえてきた。そこが今夜の会場らしい。驚いた事に、披露宴会場は花嫁さんの自宅の庭であった。この夜は一睡もすることなく、夜明けまでこの騒ぎは続くらしい。近所迷惑とも思える大音響だが「めったにないこのイベントを、村人も一緒に楽しんでいるので、ご近所さんも大目に見てくれる」と主催者は言った。



披露宴の新郎新婦

美しく着飾った今夜のお客は300人。ご馳走は、手の込んだ料理1人分が、12種類。とても食べきれない量だ。中でも、お腹に美味しい具を詰め込んだ七面鳥の焼き物だの、魚のパテは絶品であった。山海の珍味が出ている中で、何故かK氏は「中華饅頭」ばかり食べていたのが印象的だった。

披露宴の総費用は30万円、と仲人のA氏が言った。見どころのある、カンボジアの若いカップルのために、この費用の全てを、A氏が持つて上げたとの美談も伺った。

日本男児も気前が良いのう！そのA氏、折に触れ「ベトナムでお金の匂いがする。お金が僕を呼んでいる…」等と遊んでいても次のお金儲けに余念がない。高等教育を受けていないと言っていたが、普通の人には想像もつかない斬新なアイデアを次々に披露して下さり、人間の能力は、学歴でも家柄でもない事を証明してくれた。

披露宴会場で、記念の写真を撮っていたら、他のテーブルからも“写真！写真！”と声が掛かり、にわかカメラマンを買って出た。途中でフィルムが無くなってしまったが、一生懸命ポーズする皆さんには言い出しにくく困っていた

ら、A氏が、「フラッシュを焚き、シャッターを切るだけで皆が納得するから…」と教えてくれた。その通りにしたのだが、知っていてインチキをやるのは、純なカンボジアの人々の心をもて遊んでいるようで気が引けた。

夜10時頃、食べ過ぎて重くなったお腹を抱え、ヨロヨロと会場を後にした。気が引けた割には長居してしまった。

恐怖のトールスレーン刑務所博物館

見たいような、怖いような、あまり気が進まなかったが義務感で出掛けた。この刑務所(博)は市の中心部からタクシーで10分ほどの位置にあり、元学校の校舎を刑務所に転用したと言われている通り、外観は普通の建物に見える。だが、内部は、かなり恐ろしい。ホーチミンでは戦争博物館を、ハノイでもホアロー収容所を見てきたが、ここが一番、残忍に思える。

ここで貰ったパンフレットには、次のようなことが書いてあった。刑務所の収容者数は2万人で、残虐な拷問の末処刑された。だが、殺害された人の大半が罪無き一般人で、肅清の名のもとに処刑された。ここから生きて出られた人はわずか6人であった。

今も私の記憶に生々しいのは、通路の両側にはドアもなく、2畳ほどに仕切られた監房内部は、コンクリートの床に、ブリキで出来た黒い「箱型トイレ」と、花柄模様のやはりブリキ製の「皿1枚」だけだった。ベッドも机も無い。立ち上がればお互いの様子が見えるのだが、足を鎖で繋がれた人達は、立ち上がることも出来ない。ここで実際に行われた、拷問の様子を描いたパネルや写真は、地獄絵そのものであった。地獄が、この世のものであったとは…!!

この部屋に背を向けたら、引きずり込まれて、魂を抜かれてしまいそうな恐ろしさがある。まして、カメラなど向けたら殺害された人々の怨念が写るようで、ここの写真は1枚も撮ることが出来なかった。

刑務所を出た所の道端で、手足を失った、多くの物乞いする障害者に取り囲まれた。あの世

からの亡者に出逢ったようで、弾かれたように小銭をみんな渡して、逃げるようにここを後にした。

心も凍るキングフィールド9千体の頭蓋骨

怖い物見たさと言うよりは、何故か憑かれたようにタクシーを走らせてしまった。市の中心部から車で30分。チュンエク村は人影も疎らな、のどかな農村であった。公園と言うより野原に近い。小川も流れていて、子供達が水遊びをしている風景は、一見、平和に見えるのだが、野原のあちこちに20㎡ほどの大きな凹みが見える。担当者の説明によると、「処刑した人々を、1人ずつ埋葬する余裕はなく、数百体ずつ一緒に投げ込んだ穴で、今の凹みは遺体を掘り出した時の穴である。」

との説明であった。



物言わぬ9000体の頭蓋骨

周りの美しい景色と、抜けるような青空を見ていると、説明が真実ではないような気がする。だが、中央に建てられた慰霊塔内の9,000体に及ぶ頭蓋骨の山を見た時、凄惨を極めたであろう、処刑場であったことは疑う余地がなかった。物言わぬ頭蓋骨の山は、燦々と太陽を浴びて、泣いているようにも、笑っているようにも見えた。しかも、遺体は未だ半分以上土中に残されていると言う。

処刑された人々の、色鮮やかな無数の着衣を見た時、怒りや、悲しみの感情よりも、言い知れぬ無力感に襲われた。

(次号、カンボジアⅡに続く…。)

電話や FAX の代金には要注意

この国で日本より高いものはそれ程多くはありませんが、電話代もその中の一つかもしれません。携帯電話が急速にこの国でも普及していますが、従来型の有線電話も以前は申し込んでから 1 年くらいは待たされたそうですが、携帯電話の普及のおかげで新規の申込者が減少した為か、現在は 3～4 日で家に引くことが出来ます。全国的には PLDT という会社のシェアが高いようですが、この地区ではデジタルという会社の方が有力だということなので、私も自宅にはデジタルを引いています。

基本料金は契約内容により異なりますが、市内通話が無料になり、国際電話も出来る契約にすると、一ヶ月約 550 ペソ(約 1,265 円)かかります。基本料金の他に市外通話料金と国際通話料金が加算されますが、日本への通話料金は 1 分間約 50 ペソ(約 115 円)と、1 分間 40 ペソ(約 92 円)の携帯より割高になります。その他に最初に加入料と工事代金で約 3,000 ペソ(約 6,900 円)かかりました。携帯は本体価格が日本よりかなり高額で、標準的な機種で 1 台 4,000～9,000 ペソ(約 9,200 円～20,700 円)、高いものになると 1 台 38,000 ペソ(約 87,400 円)もします。1 万ペソ(約 23,000 円)以上のものを持っていないと自慢にならないと云いますから、彼らの所得からすると極めて高いものになっています。ちなみに我家の電話代はデジタルに月 1,500～3,000 ペソ(約 3,450 円～6,900 円)、携帯のプリペイドカード代が月 1,000 ペソ(約 2,300 円)位と、家計の中に占める電話代の比重は電気代に次ぐ位置を占めています。

先日中東に出向している昔の同僚からフィリピン人を採用したいので紹介して欲しいと電話があり、その後何回か連絡を取りました。もともと中東地区は日本からでも電話代が高い地区なので、始めから用心し FAX を利用していましたが、8 枚送ったところ FAX 代が 1,040 ペソ(約 2,392 円)もかかってしまいました。念の為、

同じ内容のものを手紙でも送りましたが、この特別ビジネスエアメール代も 960 ペソ(約 2,208 円)もかかってしまいました。頼まれ事を簡単に請け負うと意外に出費がかかることを思い知らされました。これに懲りて?ようやくパソコンを始めました。

バギオに行ってきました

乾期のバギオは素晴らしい!

友人の上原さんから同行を求められ、日帰りでバギオに行ってきた。

バギオは、マニラから北へ約 280Km、車で 7 時間の所にあります。空港はあるのですが、週 4 便それも乾期だけなので、頼りにはなりません。私達の住んでいる所からは車で約 1 時間半ほどで行くことが出来ます。

バギオは昔から夏の首都といわれ、こちらにいる日本人の間ではフィリピンの軽井沢と呼ばれている所です。全盛期時代のマルコス、イメルダが、クリスマスシーズンが終わった後の乾期によくここに滞在していて、当時は彼らのとりまきや、政財界の有力者がよく訪れていて、今でも政府の施設や要人、有名人の別荘も数多くあります。

20 世紀の初めに、当時フィリピンを統治していたアメリカ人が、避暑地として開発した所なので、未だに植民地的な感じが色濃く残っています。海拔 1,400M から 1,700M の高原地帯だけに、一年中涼しく、12 月、1 月には、時には、朝の最低気温が 10℃を下回ることもあるそうです。山麓からの道路の建設に日本人が数多く参加し、その後そのまま定着したことから、戦前の最盛期には、日本人の在留者も 1,000 人を超え、日本人学校もあったそうです。その後、戦争に巻き込まれて亡くなったり、戦後日本に帰国したりして、今は、戦前からの在留日本人はほとんどいません。

日本で、まだ余り知られていないせいか、日本人の定住者や、L S の人もまだ少ないようです。

高原地帯なので、キャベツ、レタス等の高原野菜は年中豊富で、きゅうりやにんじん、だいこんなども、現地で栽培しています。日本人マザーによってつくられた農協まであります。

日系人経営の食材店もあり、日本食レストランも何軒かあります。ゴルフ場は、2箇所あって、会員権の購入も可能です。また、プレー代もそれ程高くないようです。

尚、交通費はマニラからバスで片道約 300 ペソ(約 690 円)、宿泊費はシーズンにもよりますが、ワンルーム(2人)600-2,000 ペソ(約 1,380 円-4,600 円)、貸別荘もあるようです。

さて、上原さんの友人、山田さんのお住まいはその中でも特に高台にあって涼しい風が吹き抜ける素晴らしいお宅でした。

外見は大きな邸宅のように見えますが、中は3軒に分けられ、その1軒を山田さんが借り受け、もう5年も住んでいるそうです。愛知県で営んでおられた家業の町工場を8年前に処分し、其の後色々準備をされて、6年前に今の家を月2万ペソ(約 46,000 円)で借り、退職者ビザを取得し、奥様とメイド、それに犬一匹と住んでいます。山田さんからバギオ日本会への入会を誘われました。入会すれば当然また別の日本人の方々と交友を深めるチャンスにもなりますので、戻って妻と相談してから返事をすることにしました。山田さんのメイドのティナさんの手料理で昼食をご馳走になり、楽しい一日を涼しいバギオで過ごす事が出来ました。



バギオの山田さん宅

またまた、バギオに行ってきました

前回は乾期の気候が一番良いと言われる時で

したが、今回は雨期のバギオです。でも昨日も快晴で、午後2時の気温が23℃。正に真夏の軽井沢です。雨季の閑散期にはめずらしく、滞在者も多く、松林の中を散策したり、芝生に寝転んで、昼寝をする者、犬を散歩させるメイドを伴った老夫婦、馬を走らせる若者達と、これがあの騒々しいマニラと同じ国かと思うような風景でした。バギオ日本人会にも参加し、より親しくなった山田さんご夫妻を再度訪ねました。料理上手の奥様と、その奥様に標準語を名古屋弁のアクセントでしゃべる変な人とからかわれながら、いつも快活な話し方をされるご主人のとても楽しいご夫妻です。私自身、まだよくバギオのことを知らないので、これから少しずつ山田さんに教えていただきながら、今後も皆様にお知らせ出来ましたらと思っています。

クレジットカードに助けられています

今日は UC カードサマサマで何度お礼を言っても足りないくらい感謝しています。というのも、銀行の約束決済日(引き落とし日)があったのですが、蓼科の家の地代、管理費等予定外の支出の為、決済日に残高が不足してしまったのです。前回の帰国時に気がつかなかった私のミスです。日本にいる二人の息子のどちらかに連絡をして入金をしてもらおうかとも思いましたが、5日後に入る企業年金の後なら問題無いので、念の為その旨を電話で説明し、UCカードの担当者に相談したところ、5日程のことであれば待つて下さるという返事でした。以前同じような事があり、預金の振替の為に帰国した事さえあっただけに、本当に助かりました。今後もこのような事があれば相談に乗って頂けるとのこと。海外に住む私にとってはとても有難いことです。私のこの国での生活には UC カードをはじめとする銀行のクレジットカードの存在が欠かせません。海外送金の代わりに ATM のキャッシングを常時活用し、極力マイレージのつくカードを利用する事によって時には無料航空券を取得し、傷害保険も健康保険もカードの特約のみ、ローン金利の高いこの国で

の高額商品の購入にはリボルビングカードを活用するといったように、かなりの面でお世話になっています。主としてUC マスターカード、VIZA カードを利用していますが、JCB もこの国では健闘しています。またマニラ空港にはダイナースカードの特別待合室があり、無料でドリンク類、スナックからアルコール類まで提供してくれています。

クレジットカードを利用する場合は

念の為現金も持参

この国でもクレジットカードホルダーは随分増えているらしく、来比した頃の不便さは無くなりつつあり、特にマニラ地区ではどこでも、いつでも使える状態になって来ましたが、私の住んでいるウルダネータ市はまだまだ地方都市の域を出ないようで、カードが使用できる所はモール、スーパーマーケット、ホテル、レストランチェーン等ごく一部に限られていて、使用できる所も突然「マシン・ダウン」の一言で「キャッシュオンリー」に変わってしまいます。特に土曜、日曜は要注意です。いつ「キャッシュオンリー」と云われるかわからないので、カードを使う時にも必ず現金を持ち歩く必要があります。本来なら現金を持っているのが不用心の為カードにする訳ですから、現金を持っているのでは意味が無くなります。理由となっている「マシン・ダウン」も私は余り信用していません。マシン・ダウンが土・日や休日に集中するからです。多分レジが混み合うからとか、承認番号を取る為にする電話がなかなかつながらない…というのが本当の理由なのでしょう。日本ならばもし本当にマシン・ダウンしていても、その為を用意されているインプリンターと手書き伝票でカード決済してくれますが、何しろこの辺の店は客よりもレジの方が地位が高いと思っているのではないかと疑ってしまうほど、レジ係もマネージャーも現金を持ち歩かない方が悪いという態度です。買った品物を預かるから、家に現金を取りに行ってくれと云う始末です。勢い、念の為常に現金を持ち歩くように私もな

ってしまいました。ショッピングの時は妻も大体は私と一緒にですから、同じようなイヤな気持ちを持っているらしく、時々サービスの良いマニラのモールはショッピングに行きたいと言いつつ出します。たまたまあさつては久しぶりにマニラへ行く事になっていますので、サービスの良いマニラのショッピングモールで妻がエンジン全開とならないよう、私は今から祈っています。

子犬たちはどこへ行ってしまふのだろう

南国でロングステイを考える方から愛犬を連れて行きたい…という話を何度か聞いたことがあります。ご参考になる事かどうかはわかりませんが、犬のことを少しお話したいと思います。

先日、日本から戻った時に喜んで出迎えてくれた4匹の犬のうち2匹がこの一週間の間に相次いで病気で死亡しました。1匹はもらったばかりの子犬でもう1匹はもうすぐ1才になる直前でした。子犬の方は近所のサリサリのリナさんから頂いたのですが、リナさんの家で飼っていたこの犬の兄弟も死んでしまったそうです。病名は良くわかりませんが、寄生虫が原因であることは間違いありません。この辺ではどの家も犬を何匹も飼っていて、雌犬は年に2回も出産します。子犬が沢山生まれるので、生まれた犬のもらい手を探すのが大変だろうと思っていたのですが、皆余り心配していないので不思議に思っていました。ここに住んですぐの頃、野犬が2匹程撲殺されるのを見た時、それを食べてしまうという話を聞いたので、子犬も食べられてしまうのではないかと疑っていましたが、どうもこれは間違いで、子犬の生存率が低い為と考える方が正しいようです。隣の家の雌犬も最近6匹の子犬を生んだのですが、約1ヶ月たった今、生きているのは1匹だけです。我家でもマニラから連れて歩いているツイスター(雄犬)の他の3匹は皆ここに来てもらった犬ですが、そのうち2匹が死んでしまったわけです。今は元気になったシャギー(雄犬)も2回程同じ病気で、まわりの人がもう駄目だと言うくらい危なかったのですが、1回目は犬のドクタ

一に3日間預け、2回目は人間並みにペニシリンの投与で何とか切り抜けました。ここでは犬のドクターの治療代は人間より高く、3日間の入院、治療費で3,000ペソ(約6,900円)もとられました。1日1,000ペソ(約2,300円)は人間の個室スイートの入院料金と同じですから、犬ドクターの犬小屋の狭さから考えるとものすごく高いと感じました。反面ペニシリンはどこの薬局でも簡単に入手出来、金額も安いようです。この国の血統書付きの犬は殆どが輸入の為、日本と同じ位高価なようですが、病気を予防しながら育てるのはなかなか大変な事のようにです。



我家のメイドさん、コックさん、大工さんが集合！

したい事はしたい時に…

行きたい所は行きたい時に…

退職後のこちらの生活で予定など余りありません。アポイントして来る客等殆どおりません。親しくしている日本人の友人もはっきり云って暇です。約束しても都合が悪くなればいつでも変更可能です。決まった日にしなければならぬ事などまるで無いと云ってもよいでしょう。時間は全て自分の思うままに使えます。家族がいるので全て自分だけで決められる訳ではありませんが、家族という単位で考えれば、したい事はしたい時に出来、行きたい所は行きたい時に行けます。朝起きてちょっと遠くの教会に行こうと決めたり、少しゆっくり寝たいので、行く予定だったモールへのショッピングを変更するという様に、全てが自由です。時々住まいとマニラの間にあるモールに朝から出かけ、気が変わればそのままマニラまで足を伸ばして1～2日泊まって、買い物したり、

レストランで日本料理を楽しんだりもします。時間は充分すぎる程あるので、出費にさえ気をつければしたい事は大概可能です。

全ての時間を自分達の為に使えるという事は、経験しないとなかなかわからない事だと思いますが、私にとっては全く快感そのものです。

ロングステイはフィリピンの田舎暮らし

振り返ってみると50才になった頃から定年後は海外生活をする事を決めて、仕事の合間に色々な国を検討し、実際に現地に行ったりもしましたが、結局のところ今の妻がフィリピン人であるという簡単な理由で滞在先がフィリピンになってしまいました。

しかし考えてみると、その時考えていたタイのチェンマイやホアヒン、マレーシアのランカウイ島、スリランカ、ニュージーランドと比較してみて、もし自分だけで住むとしてもフィリピンの田舎を選択しただろうと考えています。

若し私が海外での生活をゴルフやスキューバダイビング、旅行といったことに時間を割く為にするのであれば、別の場所になっていたのですが、滞在先でその土地の人と同じような生活をし、その国の人の中で友人を探し、多少なりともその人達に貢献したいという希望に沿うのはやはりフィリピンの田舎暮らしが一番だと今思っています。住んでいるウルダネータ市を早朝出発すれば、その日のうちに長野の自宅に行ける足場の良さや、物価の安さ、簡単な英語の単語だけで何とか会話が出来ること、田舎暮らしでもそこそこの近代的な生活も可能なこと等が理由としてあげられますが、何よりもまわりの人達が親近感を持って接してくれることが第一の理由です。この4年間の間に色々な問題もありましたが、それは日本にいても、他の国に滞在していても、同じようなことだと思います。問題があれば考え、解決策を見出し、努力して行くことが老化防止にもつながります。

私は日本と同じようにこの国とこの国の人達を愛し、自分の人生をこれからも楽しく続けて行きたいと思っています。 終

ホタルに拉致され、闇の世界へ

接待精神で、人情の世界へ

東京在住 No. 442 平尾 守満

はじめに

5月26日～6月20日の間、「四国のホタルの実態調査」に行ってきました。現地走行距離が4219kmに及ぶシラミつぶしのゴキブリ的徘徊でした。その殆どが山中の交差もままならない一車線道路を、ここぞと思うところではライトを消し、微かな光を求めての夜間走行で、無謀な冒険行と言われてもいたし方のないところです。「女の尻よりホタルの尻」により魅力を感じた男の業なのです。「ホタルの光は、地球を救う希望の光」と思い込み、その存続に夢を託す「男のロマン行」でもあるのです。

現実を忘れるその光景

「ホタルの乱舞」は遠い昔の話ではありません。四国の各地には次のような光景が見られるのです。その現実離れした光景が。

「川沿いの竹林7～80mが光の帯となる」

「ダム湖畔一帯にホタルが乱舞する」

「波静かな湖面で乱舞するホタルの光は、反射して倍増し、あたかも湖底から光の泡が湧き上がって来る」

「一本の木がクリスマスツリーのように明滅する」

「パッパッパとフラッシュ閃光しながら舞い上がったヒメボタルに拉致され、闇の世界へ……」

こんな幻覚すら覚える光景、想像できますか？ 数えきれないほどのホタルが同時に明滅する様は圧巻というほかありません。

ロマンを求める男の言うことですから多少オーバーかもしれませんが、途中で同行した会員の宮寄、足立、古河三氏がその一端を目撃しており、証言してくれるものと確信しております。乞う、来年も証言希望者を！

自然、神仏、人間が共生するところ

中央部が山岳地帯のため、山あり、谷あり、川ありで手つかずの自然がいっぱいです。それだけにそこで暮らす人々の生活はきびしいといえます。隣村に行くにも、1, 2の山を越えなければならず「トンネルが欲しい」が実感できます。平らな耕作地などあるはずなく、山の斜面に石積みし田畑にしているのです。その技術は貴重な伝統的文化遺産となっています。その見事な景観から、自然と調和し前向きに生きる「強い気概」を感じます。

四国には八十八ヶ所の霊場を始め数多くの寺社があるのは、厳しい自然と対峙して生きるための必然だったのでしょう。神仏に守られていると思う安心感がその拠りどころとなっていたのでしょうか。

親切、真心、笑顔、挨拶……がいっぱい

とにかく、恐縮するほど親切なのである。道を尋ねたときなど、客を待たせたままで、地図をコピーし、道順まで朱書きしてくれるのである。一方、待たされている客は、文句も言わずニコニコしているのである。田起こし中の方はエンジンを止め、耕運機を降りてグチャグチャの田んぼを歩いてきてくれる。分からなければ携帯電話で他へ問い合わせしてくれる。ざっとこんな調子なのです。情報収集で訪問した43ヶ所の役場も負けず劣らずの親切売場でした。実にさわやかな気分させられました。

日本にも、こんなに人情豊かな所があったのです。「お廻路さん接待精神」が脈々と息づいているのです。

四国の皆さんありがとうございました。

南の空から情報宅急便

(南国メーリングリストより)

海外伝染病心得 北アジア方面

No. 586 磯崎興志

食物から ①生水 ②氷 ③屋台の生もの(野菜 貝類、スライスされた果物、アイスクリーム類) 細菌性 平成4年13%→平成15年19%へ増加中 注意事項 3日目の下痢、膿がつく、とき汁様、腹痛強い~同時多発性原因菌 腸炎ビブリオ、赤痢、プレシオモナス 40% インドネシア17%インド9%蚊から、マラリア、西ナイル熱(アメリカ流行) デング熱(発熱、疹、血小板減少一経過悪いと出血死する) ウィルス A、E型急性肝炎、初期は感冒に似ているが咽頭痛なく、消化器症状(食思不振)が強い、発熱、強い全身倦怠感尿の黄染、紅茶色4~5日後黄疸

成田空港検疫所によるワクチン関係問い合わせ 関東地区 0476-34-2310

黄熱、破傷風、A型肝炎、日本脳炎、ポリオ、ジフテリア、ペスト、コレラ、狂犬病、麻疹、3か月前から

医療機関受診のとき

発熱3日目(感冒以外の発熱疾患)腰痛同時の発熱(急性腎盂炎)眠れないほどの強い腹痛(潰瘍、胆石症、腎結石、腸閉塞など)出血便(赤いとは限らない、黒い~チョコレート色)体動時に関係ない、息苦しさを伴う胸痛、背部痛(狭心症、心筋梗塞、胸部大動脈破裂)意識障害を伴う発作、麻痺、言葉がはっきりしなくなる(脳出血、梗塞)何日も眠れない(うつ病)尿が出ない(前立腺肥大)

海外出発前に

持病の薬(製剤名で)病名英語を必要事項(パスポート、カードNO)控えと共に持参しよう 長期 lonstay はかかりつけ医(相談)で倍量投薬利用を持参便利薬剤鎮痛座薬(解熱、鎮痛)、便秘剤、安定剤シップ剤 消化剤

オーストラリアのスクールホリデイ(抜粋)

No 570. 山田善一

豪州の学校休日を、事前に調べておくことは、SLをする南の会のメンバーにとって、磯崎様のご指摘の様に大切なことです。私も豪州に住んでいる間、痛感しました。ホテル、コンドミニアムの値段が、ホリデイ期間中、通常の料金の2~3倍に跳ね上がりました。

短期、中期を目指した滞在を計画される場合は日程を調整される事をお勧めいたします。奥川様の引用されましたホームページを見ました。洲別のスクールホリデイが詳細に記載されているので、大変参考になり、日本人に人気のある地区を取り出してみました。

出来るだけ訪問を避けたい期間は次の通りです。

オーストラリアのスクールホリデイ(抜粋)

| 夏休 | イースター | 冬休 | 春休 |
|-----------|-------|------|------|
| 2003/2004 | 2004 | 2004 | 2004 |

QLD(ケアンズ ブリスベン)

| | | | |
|------------|----------|-----------|-----------|
| 12/13-1/21 | 4/9-4/17 | 6/26-7-11 | 9/18-10/3 |
|------------|----------|-----------|-----------|

NSW(シドニー)

| | | | |
|------------|----------|----------|------------|
| 12/20-1/27 | 4/9-4/26 | 7/3-7/18 | 9/25-10/10 |
|------------|----------|----------|------------|

WA(パース)

| | | | |
|-----------|----------|-----------|------------|
| 12/19-2/1 | 4/9-4/26 | 7/10-7/25 | 10/2-10/17 |
|-----------|----------|-----------|------------|

NT(ダーウィン)

| | | | |
|------------|----------|-----------|-----------|
| 12/13-1/30 | 4/3-4/12 | 6/19-7/18 | 9/25-10/3 |
|------------|----------|-----------|-----------|

| 夏休 | イースター | 冬休 | 春休 |
|-----------|-------|------|------|
| 2004/2005 | 2005 | 2005 | 2005 |

QLD(ケアンズブリスベン)

| | | | |
|------------|----------|----------|-----------|
| 12/11-1/23 | 3/25-4/3 | 6/18-7/3 | 9/10-9/25 |
|------------|----------|----------|-----------|

NSW(シドニー)

| | | | |
|------------|----------|----------|-----------|
| 12/22-1/27 | 4/9-4/25 | 7/2-7/17 | 9/24-10/9 |
|------------|----------|----------|-----------|

WA(パース)

| | | | |
|------------|----------|----------|-----------|
| 12/17-1/30 | 4/9-4/25 | 7/2-7/17 | 9/24-10/9 |
|------------|----------|----------|-----------|

NT(ダーウィン)

| | | | |
|------------|----------|----------|-----------|
| 12/11-1/24 | 4/9-4/25 | 7/2-7/17 | 9/24-10/9 |
|------------|----------|----------|-----------|

タイに ongstay visa を取る方

No..225 深見正勝

私の失敗と反省について。何故預金がおろせないか。bangkok bank 新橋店での通帳に (1) non-resident の印と通帳内側に (2) 特殊なインクの印が無い為 (changmai の本店で教えられる) におろせなかつた。その事を知るまでに在チエンマイの人達に御迷惑をかけお詫びいたします。結論。新橋店で (1) と (2) 特に (2) は目視で絶対わからないので。タイ人の上司(当時女性) に徹底的に金のおろし方を明細に聞く事と、タイ語か英語がわかる事が重要です。もうひとつ人によつていう事が少し違うので、自分でやつて見ることです。わかりますか? わからない事が有りましたら質問をしてください。(タイに一年の visa を取る予定の方へ)

ホーチミンについて NO. 229 藤田武男
9月14日開催のサロン会において、私の友人を通じて、ベトナム・ホーチミン(旧サイゴン)に在住15年の佐藤喜一氏(74才)が、出席していただきました。

ベトナムでの生活事情について、関心がありましたら、ご本人の了解のもと、ご本人の連絡先をお知らせしますので、まずは携帯電話に連絡してみてください。

自宅は、東京都調布ですので、近郊の方でしたら個別にお会いすることも可能とのことです。ただし、現在、一時帰国中であり、9月末あるいは10月初めにはホーチミンに戻り、来年5月頃に、また一時帰国するかも知れないとのことです。調布市内の自宅の電話(0424-83-0438)は現在不通であり、今は携帯電話(080-1084-7929)のみの連絡が可能です。

佐藤氏のホーチミンの自宅の連絡先(空港から車で5分位とのことです。タクシーで約500円程度)

<日本から電話する場合>

001-010-84-8-8455811

佐藤氏の身内(義理の弟)が経営しているホテ

ルの連絡先 芳英(フウアン)ホテル

電話 001-010-84-8-8368155

FAX 001-010-84-8-8396474

なお、上記のホーチミンの連絡先は佐藤氏本人が不在の場合は、日本語で対応できないことを注意してほしいそうです。

アジア各国語の短期研修 No. 80 阿部 功
昨年タイ語を受けて良かったので、お勧めします。2名以上にならないと開講されません。タイ語は昨年5名でした。中・韓語は受講者多いようです。

■アジア・アフリカ語入門2日間集中講座

専門学校アジア・アフリカ語学院

JR吉祥寺駅, JR三鷹駅, 京王線仙川駅からバス10~20分。〒181-0004 東京都三鷹市新川5-14-16

電話:0422-48-5515 FAX:0422-46-5107

<http://www.parkcity.ne.jp/~aali/>

■初めてアジア・アフリカ語学習に取り組まれる方を対象に、文字・発音・簡単な挨拶文などを学ぶ2日間の集中講座です。

▼期間▼

2003年9月20日(土)・21日(日)

・時間 いずれも10時00分~16時30分
1日5時限(1時限=60分)、12時10分
13時10分は昼休み、各時限の間に10分休憩)

●言語 中国語、インドネシア語、アラビア語、インド語、スワヒリ語、韓国語、タイ語、ベトナム語、ロシア語、ペルシア語、フィリピン語、トルコ語の12言語(各語2名から開講、定員15名)

●お申込 →お申し込み・お問い合わせ

FAX番号 : 0422-46-5107

電話番号 : 422-48-5515

E-mail : aali@parkcity.ne.jp

▼費用▼

受講料 10,500円(税込)

教材費 別途実費各位

平成 15 年度関東支部第 2 回情報交換会のご案内

天高く馬肥ゆる秋、日本も、南国も最も良い季節を迎え、皆様益々ご健勝のことと存じます。

さて恒例の第 2 回情報交換会を下記要領により開催致しますのでご出席賜わり度くご案内申し上げます。関東地区に限定致しませんので全国からのご参加を歓迎いたします。

記

1. 日時: 情報交換会 平成 15 年 11 月 29 日(土)午後 1 時～5 時
懇親会 同日 午後 5 時半～8 時半
2. 場所: 東京都南部労政会館(JR大崎駅南口徒歩 3 分)案内図参照
東京都品川区大崎 1 丁目 11-1 ゲートシティ大崎ウエスト
タワー 2F ・電話 03-3495-4915
緊急連絡先 事務局 宮崎迄 携帯090-2907-8340
3. 講師と予定演題
 - (1)「海外で犯罪に遭わないために一なぜ日本人は狙われるのか？」
・南の会員 NO. 33 戸田 智弘 殿
著書に「50歳からの脱ニッポン読本」「海外リタイヤ生活術」
他多数が有り近著NHK出版「狙われる日本人、これが海外犯罪の手口だ」および同氏監修の外務省ビデオをベースにお話を頂きます。
 - (2)「東カリブ海クルーズ・初めての豪華客船の旅」
・南の会家族会員 NO. 24 酒匂 愛子 殿
11万トンの巨大客船「グローリー号」による常夏のカリブ！その夢のようなクルーズを女性の視点で捕え、ご報告致します。ご期待を
 - (3)「医療機関で受診しなければならない其の症状について」
・南の会員 NO. 586 磯崎 興志 殿
南国でのロングステイ時、我々が最も心配な病気、健康について
内科医の立場からその症状例とどうすれば良いかアドバイスを
して頂きます。
4. 懇親会 : お馴染みの「フェスタガーデン」にて、食べ放題・飲み放題
5. 会費 : 情報交換会: 500円、懇親会: 飲まない方 1, 700円

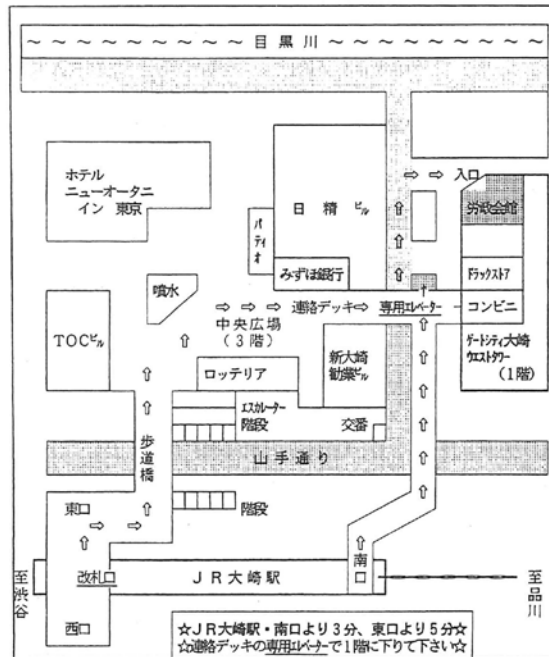
飲む方 2,800円

6. 出席の方は同封の出欠届にて郵便か南国メールにてご連絡ください。上記で送れない方はFAX:047-463-5183 菊地宛
11月22日までにご送信ください。
以上

南部労政会館・案内図

◇東京都大崎労政事務所・南部労政会館◇

品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎・ウエストタワー2F
☎ 141-0032 ☎ 03-3495-4915 FAX 03-3495-4916



「南国暮らしの会」からのお勧め

自己責任 * 納得の上 * 自己決定

南国で買い物をするときには、すぐ買わず、
情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、
しばらく試してみても納得してから
自分の責任において自己決定する

南 の 会 ・ 伝 言 ・ 掲 示 板

伝言板

会員の皆様へ

平成 15 年 9 月 9 日

マニラ支部長 塩見 祥昭

理 事 長 池田徳三郎

ボランティア活動協力者の募集について

このたび、「NPO法人ニュースタート」のマニラ事務局マニラ松本氏から当法人の塩見マニラ支部長宛てに下記の通り、ボランティア活動の希望者を求めたい旨の連絡と協力要請がありましたのでお知らせします。

記

1. ボランティア活動の内容及び募集要項：

A. 5才—12才のフィリピン人、日本人に日本語を教える為に学校というより塾を立ち上げ、依頼先のマニラの事務局で実地しております。

B. 塾の立ち上げは、日本人でひきこもりであった青年達（10代後半—30才まで、6—7人に）がフィリピンの子供達に日本語を教えながら（子供達の体験）、ニュースタートは次の目的を目指しております。

同会の目的としては子供教育の体験老人のケアサービス、レストラン、喫茶店（日本）で勤めながら仕事の大切さ、面白さ、やる気を体験させる事です。

C. 日本語を教えられた経験の有る方又は日本語教育に意欲の有る方（教材等はこちらで用意しています）にひきこもり青年の全体的教育指導を担当して貰う

D. 3ヶ月以上活動の出来る方、半年—1年でもかまいません。

勤務時間：朝9時—夕方4時ぐらいまで（土・日は休み）

部屋、食事、洗濯、清掃はメイドさんがしてくれます

部屋は MASTER ROOM が提供されます、(TV、エアコンバス、トイレ、冷蔵庫、2 Bed) テレビも NHK が放送されています

E. 勤務地の住所等：

#128 Antonio Roxas Chua Circle, Pacific Village, Alabang, Muntinlupa City, Philippines TEL: (63-2)842-7679 (松本)

マニラ空港より南へ30分位のアヤラ アラバンとい閑静な住宅地に有り歩いて5分位で大きなショッピングモールも有り便利な所です。

2. NPO 法人ニュースタート日本での連絡

本 部：千葉県 浦安市事務局

事務局：千葉県 市川市 入船 1—23 第五東成ビル 305号

担当者：戒能忠彦氏 TEL：047-307-3676 FAX：047-307-3687

3. 条 件：児童教育に関心が有る方、異文化交流に興味の有る方、日本語教育にたずさわった事が有る方（日本語教師経験があればのぞましい）又は日本語教育の知識を持ちあわせている方、マニラまでの航空券を自己負担できる方（可能であれば）日本人青年との共同生活に不自由を感じない方

申し込み方法：詳細等は日本事務局 千葉県市川市入船戒能充にお問い合わせ下さい。

Tel: 047-307-3676 (月—金 10時から18時まで) フィリピンでの問い合わせは塩見まで御願います。(63-2-545-7939) shiomi@compass.com.ph

南の会・伝言・掲示板

§図書案内

*じじばばネパールへ行く「見た・踊った・暮らした…歳などどつてるヒマはない」

発行：本の森 著者：水谷 郷 発売：星雲社 定価 1,200 円＋税

南の会、会員 No.373 の水谷郷さんの本が出版されました！ 79 歳と、72 歳になられる水谷さんご夫妻は 10 年前、目的も予定も決めない旅に出ることにシワゴン車にテントを積み日本中を走りました。この本はその後外国に目を向けたご夫妻が、平成 8 年から訪れているネパールを単なる海外旅行ではなく、現地の人達との交流を交えながら周られたエネルギーあふれる奮戦記で、元気を分けてもらえる…そんな 1 冊です。

*先進国・途上国「海外で健康にくらす」

発行 キョーハンブックス 著書 渡辺義一 定価 1,800(本体)

*「極楽ロングステイ ガイド」

第 1 章 ロングステイとは

準備・健康管理について、対処法

第 2 章 経験談

発行 講談社 編者 (株) 海外ロングステイ財団 定価 1,600 円 (本体)

*「バンコク・チェンマイ・プーケ生活ガイド」

生活するのに必要な情報が載ってます。

発行 (株) データーハウス 著者 タイ現地生活文化会 定価 1,600 円 (本体)

*1 週間から始める「バンコク・ロングステイ」

写真がカラーで見やすい。

発行 ぶれすアルファ 発売 キョーハンブックス 定価 1,500 円 (本体)

*「ハワイ黄金生活」

夫婦 2 人 月 20 万円でゆったり暮らすノウハウ

発行 講談社 著者 大塚真介 定価 1,600 円 (本体)

*「コスタリカを学ぶ」

コスタリカ政府観光局日本事務所と各分野の専門家が執筆され纏められた、コスタリカ共和国の専門書と言える書です。

第 1 章 特徴ある国家としてのコスタリカ。 第 2 章 コスタリカを旅する。

第 3 章 コスタリカで暮らす様々な手段。

巻末付録：統計、憲法一覧、日本人の滞在ビザ取得方法、出入国関係書類 (日本語訳)

購入方法 (本屋にはありません) 郵便振替口座 No. : 00130-8-665872

加入者名 : 日本・コスタリカ自然保護協会 定価 : ¥1,800 送料 ¥210-

支部・部会伝達版

九州支部

支部長 稲延 豁

「九州支部サロン会報告」

日時 平成15年9月27日(土)

時間 13:30~17:00

場所 福岡県宗像郡福間町公民館2F5号室

招待講師：芝山スペイン名誉領事

出席者 21名

天高く大気澄み渡り爽やかな日に「九州支部サロン会」は開かれました。

メインテーマは「スペインをつぶさに知る事」

1.滞在については、ビザ申請を6ヶ月毎に申請してゆけばよい。

2.ロングステイについては3つ星のホテルやアパートに宿泊して現地調査から始める事。

3.病院は英語が通じる。

4.家賃は世界共通で場所により高低が有り、普通何処でも寝室3、サロン、台所、バス付きで4.5万円、但し家具はない。

講師の芝山氏は現在52歳で22歳の時にスペインに渡り、御夫人はアンダルシア出身。滞在が長いだけにお話に蘊蓄がありました。

九州支部の今後の展望と取り組みは、

・九州を福岡、佐賀/熊本、長崎/鹿児島、沖縄と3ブロックに分けて交流を出張して順次やる。意見としては福岡県内を主体に拡大する事を基本に考え遠隔地は会報に準拠すれば良いので問題はない

・現地調査旅行はマレーシア、タイが圧倒的に多かった。チェンマイ、ペナン、バンコク、クアランプール方向に決定。日程は11月。

サロン会は誠に密度の濃い有意義で楽しい会合でした。また皆様の深いご理解とご協力のなかなごやかに閉会いたしました。

懇親会は福間駅前近くで行いました。18時から2時間心置きなく歓談して解散しました。

関西支部

支部長 大橋 績

秋の例会のお知らせ

今回はチェンマイとペナンをメインに勉強会を開催します、終了後は会員交流の懇親会も行い

ます

1.日時 10月26日(日)

午後1:00~5:00

2.場所 芦屋市民センター本館2階203

芦屋市業平町8番24号

電話0797-31-4995

3.内容 ①チェンマイとメコン周辺国の歩き方

阿部功さん(No80)

②ペナンロングステイ体験

吉田ご夫妻(No588)

③自己紹介

4.懇親会午後5:30~7:00

5.その他

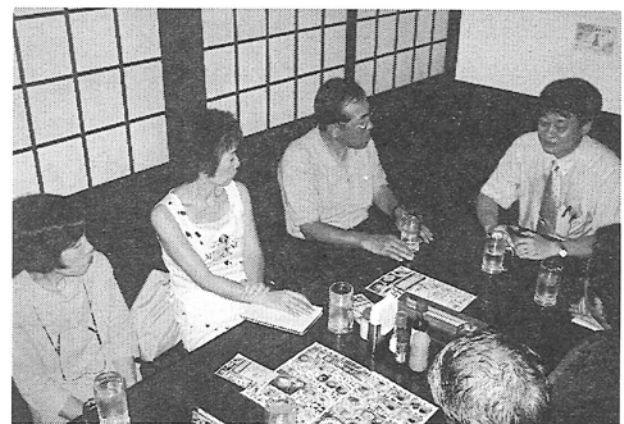
初めての芦屋開催ですがアクセスも便利で素晴らしい環境の会場です、西日本の方もどうぞお申し込み下さい。JR神戸線大阪駅、神戸駅から新快速で15分、駅から徒歩約6分、阪急「芦屋川」阪神「芦屋」の各駅から徒歩約7分講師の阿部さんは画像からリアルな説明にご期待下さい。

お申し込み

大橋(12)までメール又は葉書をお願いします。

関西支部(高槻ミニ会)

8月4日(月)、ペナンの石原副支部長が来阪の機会をチャンスに大阪、高槻市でランチミーティングをしました。



高槻ミニ会

近郊から7名が集い石原さんと計8名でレストランの個室を使い安いランチでしたが内容は

豊富な会合が出来ました。

ペナン指向の方が中心ですので、例会とは一味違う Q&A が出来ました。9月にはこの中から4名が早速ペナンに行かれます。(大橋 績)

四国ミニ会 (関西支部)

第三回目の四国ミニ会が、7月28日、高知県の窪川町で行われました。

参加者は、四国内から5名、関西方面からは、大橋支部長はじめ4名。さらに、愛媛出身、浦和在住の、#108、八東さんのメールによる紙上参加を得ました。

中土佐町、黒潮本陣で集合、温泉と塩湯でドライブの疲れを取ったあと、会場の窪川町改善センターへ移動。2時から5時までは、南の会メンバーだけの集い。6時から8時までは、窪川国際クラブの13名に加わっていただき、合同情報交換会



国際クラブの方々

さらに、その後、10時過ぎまで、飲み屋さんで、合同親睦会を楽しみました。

宮本裕子さんの、最新のダバオ生活体験、八東さんの、62回に渉る渡比体験、田中亨之さんの土佐文化論、などが話題の中心になりました。泊まりは、岩本寺ユースホステルの別館を借りきり。

翌日は、四万十上流の松葉川温泉へ。入浴の後、休憩室で、談笑がてらに総括をして、現地で解散いたしました。八東さん、紙上参加いただいたお蔭で、盛り上がりました。本当にありがとうございました。(下元記)

東海支部の7月から9月までの活動報告

支部長：横井保夫

一昨日7月13日(日)の東海支部定例会が愛知県青年会館で開かれました。

梅雨前線の活発化する中、40名を越える参加者で盛り上がりました。

目下旅行中の方が多く前回の50名を下回りましたが、内容的には今までで最も南の会らしい濃いものでした。ご参加の皆様、ありがとうございました。

1.先回4月13日以来の活動状況の報告。

2.新しく決まった役員報告の中で、新しく会員になった人の会員名簿が会員になった人には当然届けられるのだが、連絡網の地区長には次の会報が配布されるまでは新入会員が解らないため定例会とかサロン会の案内が出来ない事が問題である事が判明した。事務局にお願いがあります。今後新しく会員となられた人には東海地区の人なら東海支部長ないしは運営部長445山本様に連絡取るようご指導願います。

3.情報交換会は最近ロングステイ視察された(その一)570山田様537水野様563松井様によるタイはバンコック及びチェンマイ体験旅行報告。松井様は例会には出られませんでした。バンコック支部長五十嵐様チェンマイ支部長鈴木様副支部長八巻様には大変参考になるお話をお聞かせくださったとして感謝されておりました。

(その二)井上様585ご夫妻による豪州はケアンズの体験報告。冬でも暑い(日本の今と同じ)はロングステイに適しているし、人間もフランクで言葉にも不自由しない1700名もの日本人が居る所との事でした。

(その三)最近会員となられた鈴木様(643)によるサモア、トンガ、フィジーのロングステイ先として、まさに南の会にぴったりの国の紹介がありました。奥様がサモアの人で結婚までのいきさつや苦労話を楽しませていただきました。

4.サロン会への反省と今後の要望

(その一)5月と6月のサロン会はタイ語の練習

習会をやりましたが、引きつづいて今後もや
てゆきたいとの意見が強く、次回は9月14日
(8月はお盆休み)。

やり方では、あまり沢山の言葉を詰め込むの
ではなく(とっさにでてこない)基礎的な言葉
を反復練習例えば買い物での値引き交渉を売り
手と買い手にわかれて買い物ごっこをやってみ
よう。

(その二)今後有志でエスニック料理を楽しんで
ゆこう。

早速、例会がすんだ後5時半集合でタイレス
トランに行く事になった。617田澤様が詳しく
幹事役を買って出ていただいた。

5、その他、

今年中または来年はじめに1ヶ月ぐらい有志
でチェンマイに行きたいとの意見が多く是非前
向きに検討しようということになりました。

6、懇親会のタイ料理には20名を超える盛況
さでした。御蔭で親睦が大変進み、今まで何と
なく堅苦しい会員間の雰囲気一度に旧知の仲
のごとく楽しく会話が弾んでいた様でした。

8月の活動は夏休みとお盆休みで支部として
の活動はお休みでした。

9月14日(日)13時より東海支部月例サロ
ン会が愛知県青年会館にて行われました。

出席者25名でした。タイ語練習会第3回が
メインテーマでありましたが、6月7月8月
の3ヶ月をブルガリヤにて生活をされたダン
吉こと高橋昭氏(94)から体験談を賜りまし
たが詳しい報告は次回東海支部定例会(10月
12日)にて写真パネルでされる予定です。

タイ語の練習会はチェンマイに於ける乗り物
(ソンテウEQ赤バス、ツクツクEQ三輪自
動車)の運転手との行き先及び値段交渉のコツ
を勉強しました。また同様に買い物での値切り
交渉のコツも勉強しました。

後は現地での実地訓練ということで、このたび
当支部近藤尚武氏(608)が当分単身で

9月末よりバンコック経由チェンマイにてロン
グステイをされる事になりました。東海支部よ
り第一号の本格的チェンマイロングステイです。

チェンマイ支部の皆様どうか宜しく応援してあ
げてください。

サロン会後の懇親会は山田善一氏(570)のご手
配で名古屋駅前のキャッスルプラザホテル地階
のインド料理アクバルにて盛り上がりました。

南の会甲信越支部会開催報告

支部長 宮澤 英光

開催日時:平成15年7月25日(水)

開催場所:長野県立科町女神湖畔

泉郷プラザホテル(1泊2日)

参加者:11名

チェンマイから帰国中の鈴木ご夫妻、またフ
ィリピン在住の齋木様及び初めての参加となる
新潟県の渡辺夫妻、長野県の小松夫妻、また事
務局の高澤様を迎え、25日の午後大変緑の美
しいリゾート地<女神湖畔>のホテルにて開催
しました。早速自己紹介に始まり現在のロング
ステイの状況や今後の予定、抱負などを報告な
いしは情報提供が行われました。和気藹々の楽
しい時間を過ごした後皆で温泉に浸かりまた一
談義。懇親会では山菜料理を頂きながら活発な
情報交換がなされました。ホテルの部屋に戻
ってまた話に花が咲き時間の過ぎるのも忘れて深
夜まで語り合いました。

翌日朝霧の中湖畔の散策や日光キスゲの花が咲
き乱れる霧ヶ峰高原をドライブし、またの再
会を誓い散会となりました。

直接ロングステイの実績を持つ会員からいろ
ろ生の情報が話され、これから計画される会員
には大変有益な情報提供がなされました。

以上簡単ですが報告といたします。

関東支部

支部長 宮崎 哲郎

サロン「南の会」、月一回常設サロン会のご報
告を致します。

7月以降のサロン「南の会」の状況は下記の通
りです。

・7月13日(日)常連の方々に加え、開催日
を日曜にした関係からか新規の方が大勢お出で
になり59名のご出席を頂きました。50人の

会場がオーバーフロウの状況でお世話役でんてこ舞いの忙しさでした。勿論熱気溢れ、たまたまお出でになった「ワールドステイクラブ」の幹部の方も当会のエネルギーに圧倒されたそうです。

- ・ 8月9日(土)前月に引き続き50名超え55名の参加者でした。
- ・ 9月14日(日)参加者49名でした。

いつものお世話役が海外に出かけたため、8月、9月の2ヶ月は高沢さん、市東さん、大野さん、細田さんなどお手伝い頂きましたが、何の支障無くスムーズに運営されました。むしろマンネリにならず大変すばらしいチームワークをメンバーの方が発揮されました。開催日を第2土曜日、日曜日と交互に行いご出席者の便を図って見ましたが今のところ問題がないようですので少しこれを続けてみたいと考えております。これに関し皆様のご意見を頂ければ幸いです。

11月は情報交換会のため、12月は会場の都合の為、お休みと致しますが、12月は「忘年サロン会」と銘打ちパーティ形式の懇親会を計画しておりますのでご期待ください。

なを最近大崎の会場も確保が難しくなってきましたので必ずしも予定どおりとは行かない事が予想されます。毎月の予定をメーリングリストにてお知らせ致しておりますので、MLメンバーの方は確実に情報をフォロー出来ますがパソコンお持ち出ない方はどうかお手数ですが事務局まで電話かFAXで事前にお問い合わせください。

問い合わせ先

宮崎・03-3472-9954

菊地・047-463-5183

高沢・0423-73-6530

何れもTEL&FAXです、ご都合の良い所へコンタクトして下さい。

北海道支部設立おめでとうございます

北海道支部

支部長工藤俊一

本部から宮崎副理事長もお越しになり多数の支部会員、ほか非会員まで参加しての会になりました。

1、平成15年10月5日 14:00~16:45

2、登録会員 20名、当日出席会員 16名、出席者 27名(家族会員+非会員3名)

(1)情報提供 「最近のチェンマイ、ペナンについて」 宮崎副理事長

(2)情報提供 「二度目のバリ島ロングステイ」
245番 佐藤真理子 様

(3)自己紹介

(4)今後の運営と次回予定

役員選出、今後の運営と次回予定

(1)では宮崎副理事長からチェンマイ、ペナン島の、住宅事情、交通、食費、環境等現地での生活状況等の詳しい説明がありました。

実際にLSする時の大きな助けになりました。

(2)では佐藤さんの方からバリ島ロングステイの詳しい日程表やロングステイした31日間の詳しい費用がプリントで渡され、今後の費用の大きな参考になりました。

自己紹介ではそれぞれが個性にあふれるユーモアたっぷりの自己紹介に一気に会場の雰囲気も和みました。

役員を選出

支部長 625番 工藤俊一

総務 111番 堀江幸博、八重子、ご夫妻

会計 245番 佐藤真理子

次回は来年1月中旬頃開催の予定と決定。

16時45分閉会

17時15分より2時間の予定で懇親会が始まりましたが、ほとんどの方々が初対面ではありませんでしたが、海外ロングステイの話に花が咲き、お開きになったのが午後9時頃だったような気がします、アルコールの為時間は定かではありません。盛り上がりました。

次回は1月新年会をかねた2回目の会合を約束して皆様とお別れしました。

総務（事務局）担当より

担当理事：宮崎哲郎／菊地 功／宮澤弘晃

1.今年6月下旬以降の主な動きは以下の通りです。

- 6月22日：企画委員会(6名)
- 7月13日：第1回理事会(13名)
- 8月8日：特許庁にて登録商標調査(2名)
- 8月24日：第2回理事会(10名)
- 9月20日：第3回理事会(10名)

2.ミニ情報交換会関係

- a)7月30日、前回と同じ小石川後樂園涵徳亭で、斉木さんを囲んでフィリピン、特にバギオ（フィリピンの夏の首都バギオは日本の軽井沢の様な気候で過ごしやすい）についてミニ情報交換会を行い、14名の方が出席されました。3時間の情報交換では物足りない楽しいひとときを過ごし、シビックスカイレストラン（椿山荘）での懇親会でも大いに盛り上がりました。斎木さん有り難う御座いました。
- b)9月1日、シビックスカイレストラン(椿山荘)にオーストラリア在住、鈴木竜一郎氏（会計士）をお招きして現在のオーストラリアの生の情報を伺いました。平日の早い時間のスタートでしたが、15名の方が出席され、鈴木氏から「オーストラリアは現在一貫して成長をとげている（普通預金でも4%ある）、マイナスを知らない成長を続けている。

しかし不動産についてはバブルの傾向があり何時はじけてもおかしくない状況である」などの大変有益なお話を伺いました。年号にこの要約を掲載する予定です。

3.今年5月頃、バリ島で会員の方が現地観光ガイドから法外なガイド料を要求されたとしてガイド及びその家族の方と「払う、払わない」のトラブルが発生したとの報告を受けました。
当然のことですが、海外は特に契約社会です。相手に何かを依頼する場合は、必ず事前に対価の合意を得るようにしましょう。

会員担当

担当理事：龍野宏／鈴木剛／酒匂景輝

1.会員動向(平成15年度正会員)
平成15年9月30日現在：438名
内訳・継続会員：320名 新規入会者：118名
15年度予定会員数が400名をクリアして急上昇中です。

2.会員の転居届について

転居届をしない方が多く大変困っております。会報（3ヶ月毎）などが届かない場合は、自分が届け出をしていないのだと思って下さい。転居届がある迄、返品された資料は事務局で保管しておきます。

3. 会員名簿について

- ① 会員名簿に誤記が一部有り訂正名簿を添付します。
- ② 新規入会者及び復活者の追加名簿を添付します。前回配布の名簿にファイルし有効にご利用下さい。

③ *会員名簿の貸し出しは絶対禁止*

お詫び夏季号の「会報の貸し出しは絶対禁止」は当方のミスです。上記会員名簿という表現に訂正して下さい。」

必携（規定）編集委員会

今回はインドネシア、ニュージーランドの入出国カードに記入例を配布致します。
手元の「南国の会必携」に追加して下さい。

会報担当より

担当理事:細田良子/龍野 宏/平尾守満/小沢公子

今季号はバリ特集を組みました。バリの情報を寄稿して下さいった会友の長岡さんは婚姻により、1996年からバリ島在住の方です。

もっと情報を載せたいを思っても紙面のこともあり、十分に伝えられたかが心配です。

秋季号も皆様のご協力を得て発行する事ができ編集者としてホッとしています。東カリブでのクルージングを楽しんでいます。（細田）

次回はゴルフ情報満載です。お楽しみに！新年号担当はNo.117 龍野宏さんです。よろしく

☆ 編集委員より☆

♪この会報は会員みんなの会報です
よい情報をみんなで共有しましょう
皆さんの南国経験や情報を是非原稿としてお寄せください
お待ちしております



窓口

| | |
|-------|---|
| 細田 良子 | TEL : 045-832-5615 e-mail : r-hosoda@jb3.so-net.ne.jp |
| 龍野 宏 | TEL : 048-781-4929 e-mail : hiro.tatsuno@nifty.ne.jp |
| 平尾 守満 | TEL : 0426-26-3665 e-mail : hirao.morimitsu@nifty.com |
| 小沢 公子 | TEL : 03-3949-2436 e-mail : g-ozawa@dab.hi-ho.ne.jp |

♪次回「新年号」は1月発行です
よって原稿の締め切りは11月30日が目安となります

記事の無断転載、複製を禁じます

発行者 特定非営利活動法人(NPO法人)
「南国暮らしの会」

理事長 池田 徳三郎
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-15-2-809
TEL/FAX 03-3947-8977

NANGOKUNANGOKUNANGOKU



NANGOKUNANGOKUNANGOKU